

宜野湾市 在宅介護実態調査結果報告書

(宜野湾市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定資料)

令和8年3月
宜 野 湾 市

－ 目 次 －

I. 在宅介護実態調査

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 本報告の構成.....	1
4. 報告書の見方.....	1
5. 調査結果より（国の分析項目を中心に掲載）	2
(1)基本的な項目.....	2
(2)施設等検討の状況.....	23
(3)介護者が不安に感じる介護.....	25
(4)介護者が不安を感じる介護（サービス利用回数別）	27
(5)サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況	29
(6)訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況	31
(7)介護者が不安に感じる介護（就労継続見込み別）	32
(8)介護保険サービスの利用.....	34
(9)サービス利用の組み合わせ（介護者の就労状況別）	36
(10)介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）	37
(11)在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	39
(12)サービス利用の組み合わせ（要介護度別・世帯類型別）	42
(13)施設等検討の状況（要介護度別・世帯類型別）	44
(14)訪問診療の利用割合.....	46
(15)訪問診療とサービスの利用有無の関係	48
(16)訪問看護の利用状況.....	50
(17)救急（総合病院への定期外受診）の受診回数	51
(18)その他.....	52

I. 在宅介護実態調査

1. 調査の目的

在宅で介護を受けている高齢者について、介護の実態や介護者の就労状況等を把握し、利用している介護サービスや要介護度、世帯構成などとの集計を行うことで、今後必要とされる支援内容や、家族等介護者の介護離職防止に向けたサービス展開等を検討することを目的に調査を実施。

調査は国から示された調査票をもとに一部設問を追加して実施。調査件数は、国から各市町村 600 件程度実施することと示されている。(地域の実情に応じて調査数は設定する)

2. 調査の概要

調査実施期間：令和 7 年 1 2 月 2 日～令和 7 年 1 2 月 2 3 日

調 査 方 法：郵送による配布・回収（WEB 回答を併用）

調 査 対 象 者：在宅で生活をしている要支援・要介護を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける(受けた)方。(住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅に入居している方を含む)

回 収 状 況：配布数：1,400 件 回収数：626 件（回収率：44.7%）

内WEB 回答： 87 件（回答率： 6.2%）

調 査 内 容：・要介護者と介護者の状況 ・介護者の就労状況
・行っている介護の内容 ・就労と介護の継続について
・サービスの利用状況 ・施設入所の意向

3. 本報告の構成

本報告では、在宅介護実態調査の集計結果より、主な分析項目を全国(令和 5 年版「在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)【10 万人以上 30 万人未満】)と比較しながら、市の状況把握を行っている。

4. 報告書の見方

- 図表中の「n 数(number of case)」は集計対象者総数あるいは回答限定者設問の限定条件に該当する人を示している。
- グラフ中の「%」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問(1 つだけに○をつけるもの)であっても合計が 100%にならない場合がある。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるもの)は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示している。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しているが、文字数が多い場合は要約して記載する場合もある。
- 表中データへの色付け(グレー色の網掛け)は、データを比較して、割合が最も高いところやこれに準じて高いところを中心に、分析文章の補完として色付けしている。

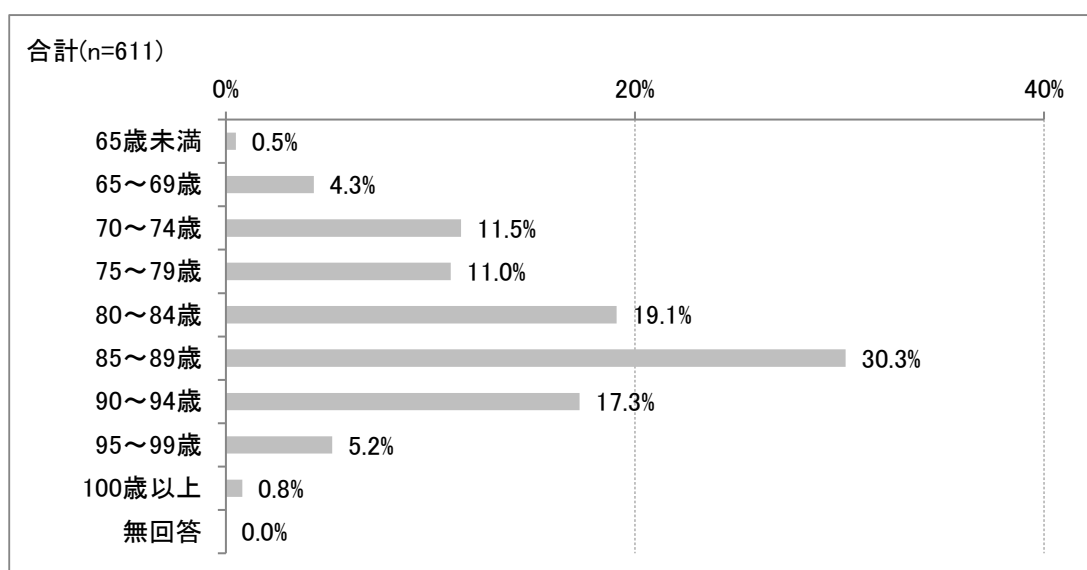
5. 調査結果より（国の分析項目を中心に掲載）

(1) 基本的な項目

① 年齢

本調査回答者（介護を受けている方）の年齢は、「85～89 歳」が 30.3%（前回 28.2%）が 3 割を占め最も高いほか、「80～84 歳」が 19.1%（前回 21.5%）、「90～94 歳」が 17.3%（前回 14.1%）で、他の年齢層より高い。在宅生活を送る要介護者の 49.4%（前回 49.7%）が 80 台となっており、90 代以上も合わせると 72.7%（前回 69.0%）となる。

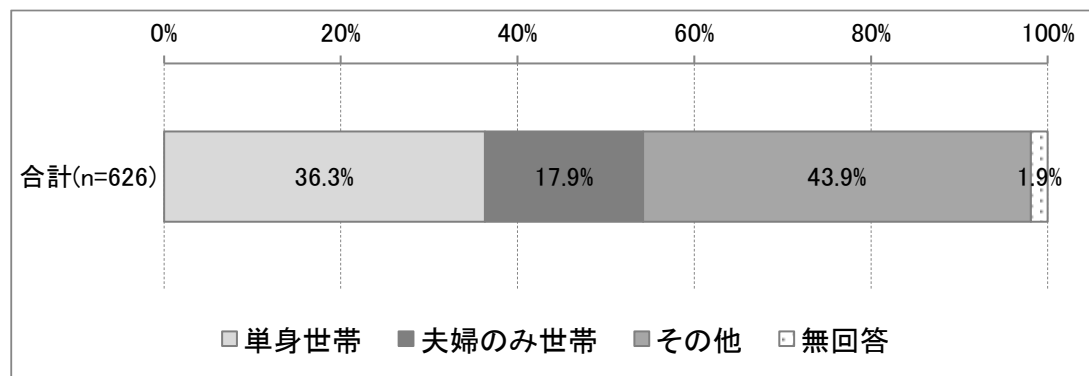
年齢



② 世帯類型

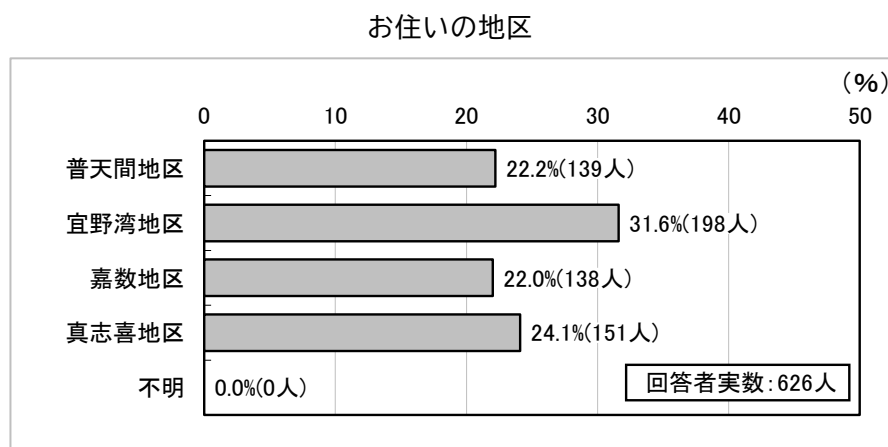
在宅介護を受けている高齢者の世帯構成をみると、3人以上の同居世帯等の「その他」が 43.9%（前回 45.1%）で最も高く、「単身世帯」は 36.3%（前回 31.5%）、「夫婦のみ世帯」は 17.9%（前回 20.7%）であった。

世帯類型



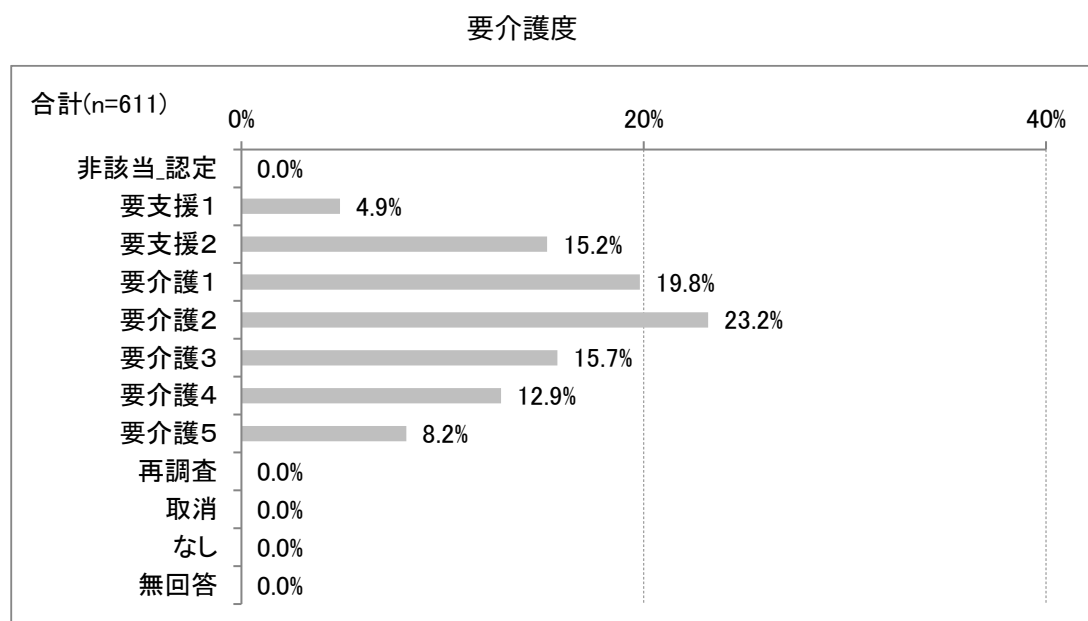
③お住いの地区

お住いの地区では、宜野湾地区(長田、宜野湾、愛知、中原)が31.6%(前回26.6%)で、4地区の中で最も高い。次いで真志喜地区(伊佐、大山、真志喜、宇地泊、大謝名、大謝名団地、嘉数ハイツ)が24.1%(前回23.2%)、普天間地区(野嵩1区、野嵩2区、野嵩3区、普天間1区、普天間2区、普天間3区、新城、喜友名)が22.2%(前回27.4%)、嘉数地区(嘉数、真栄原、我如古、上大謝名)が22.0%(前回22.7%)となっている。



④要介護度

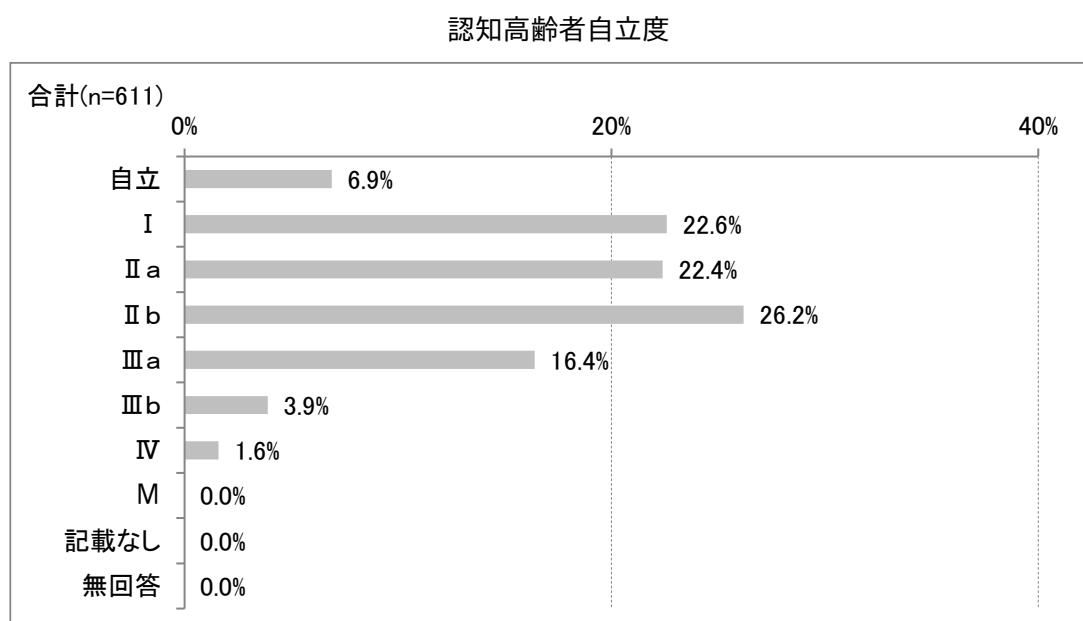
在宅介護者の要介護度をみると、「要介護2」が23.2%(前回24.6%)で最も高く、「要介護1」が19.8%(前回20.7%)でこれに次いでいる。また、要介護3以上の中重度者は、36.8%(前回30.6%)である。



⑤認知高齢者自立度

在宅要介護者の認知自立度をみると、「Ⅱb」が26.2%（前回18.9%）で最も高いほか、「Ⅱa」が22.6%（前回22.1%）であり、これらを合わせると「Ⅱ」が45.0%（前回41.0%）を占めている。「日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」に該当する要介護者が最も多い。

「Ⅰ」は22.6%（前回30.0%）で2割余りを占め、「Ⅲ」は20.3%（前回15.2%）、「Ⅳ」は1.6%（前回1.0%）となっている。



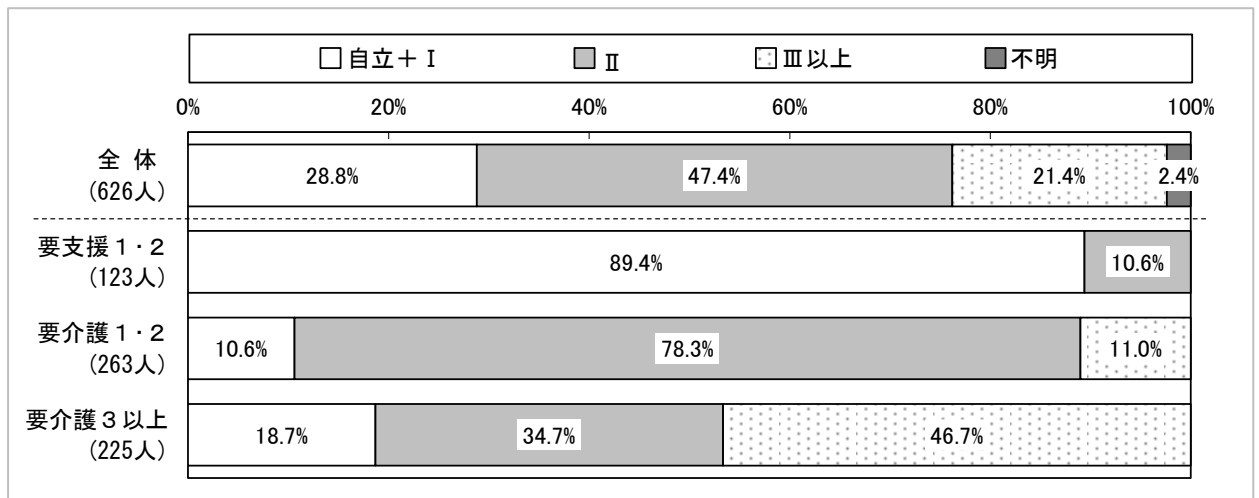
■認知症高齢者の日常生活自立度の評価基準

区分	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
Ⅱ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
Ⅱ a	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。
Ⅱ b	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。
Ⅲ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
Ⅲ a	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
Ⅲ b	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
Ⅳ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

参考：厚生労働省「認知症高齢者の日常生活自立度」

要介護度別にみると、「要支援１・２」では「自立＋Ⅰ」が 89.4%（前回 67.5%）を占めており、認知症状がない又は認知症状があっても日常生活では自立している人が非常に多い。しかし、「要介護１・２」になると「Ⅱ」が 78.3%（前回 41.2%）を占め、「要介護３以上」では「Ⅲ」が 46.7%（前回 24.1%）で最も高い。自立度の低下と要介護度の重度化は比例している。（※前回調査では「不明」が多く、全体的な比率が低くなっている）

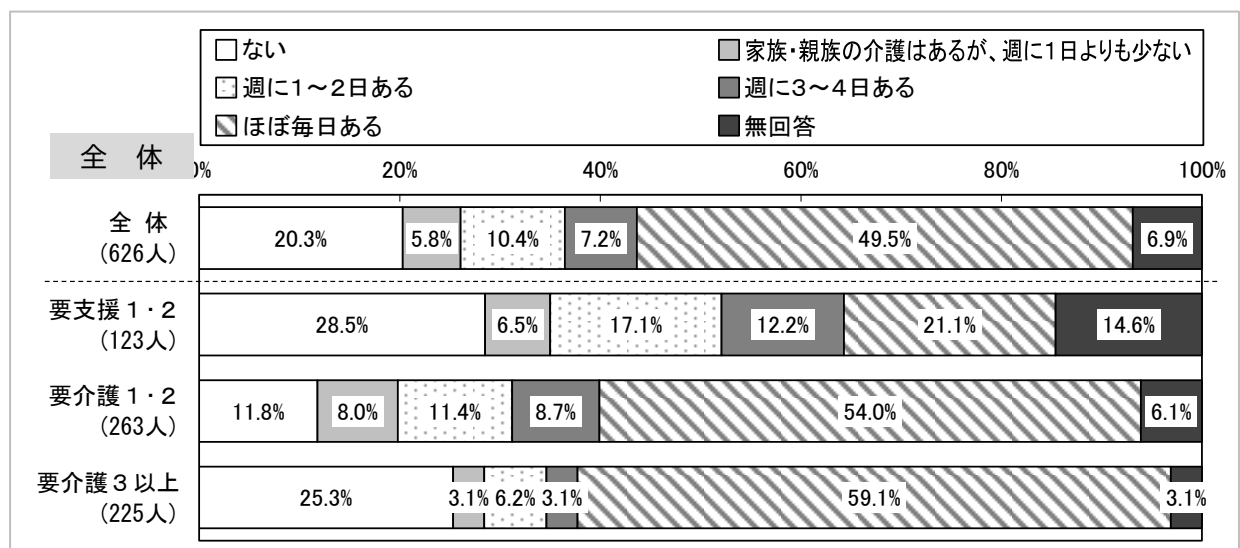
要介護度別・認知高齢者自立度

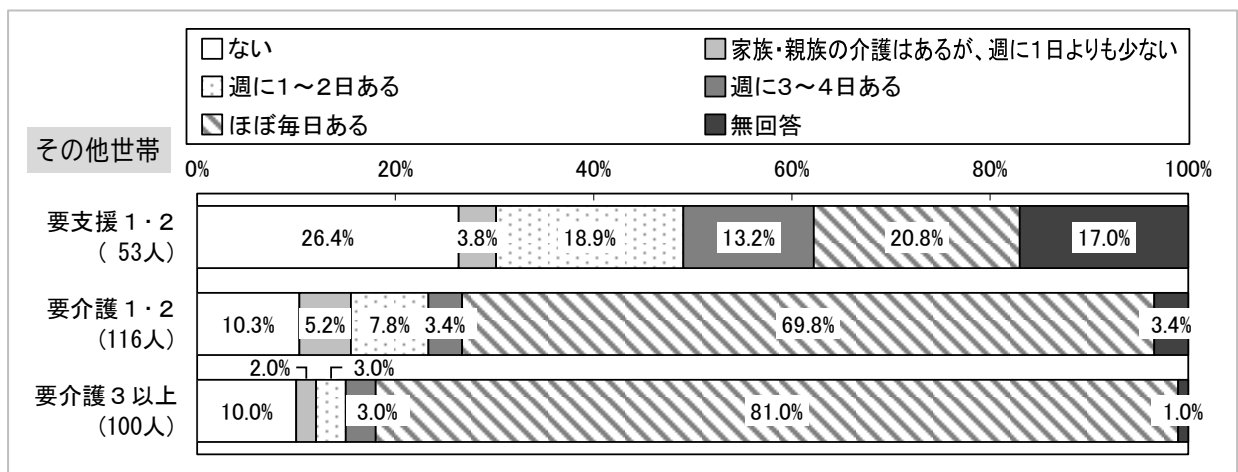
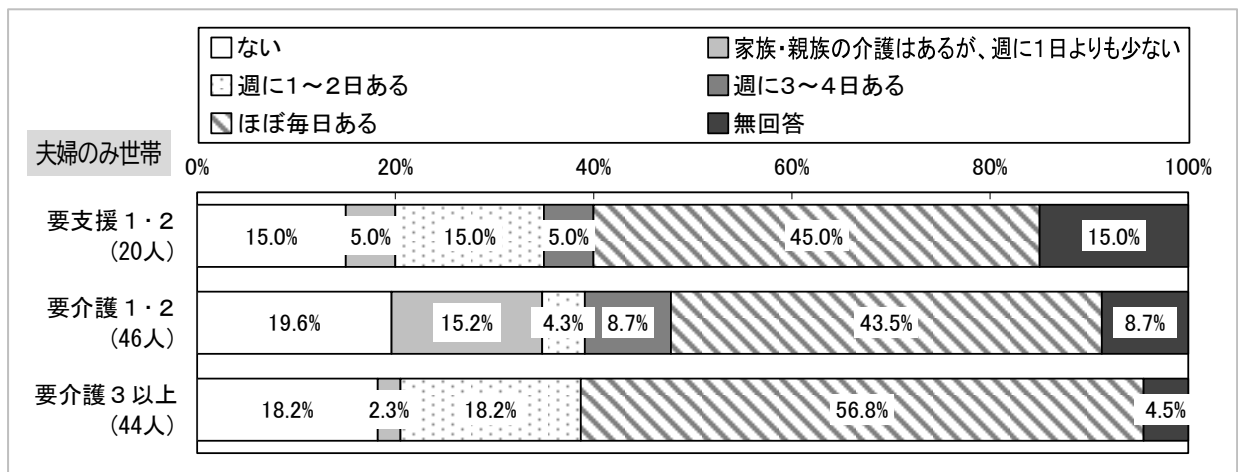
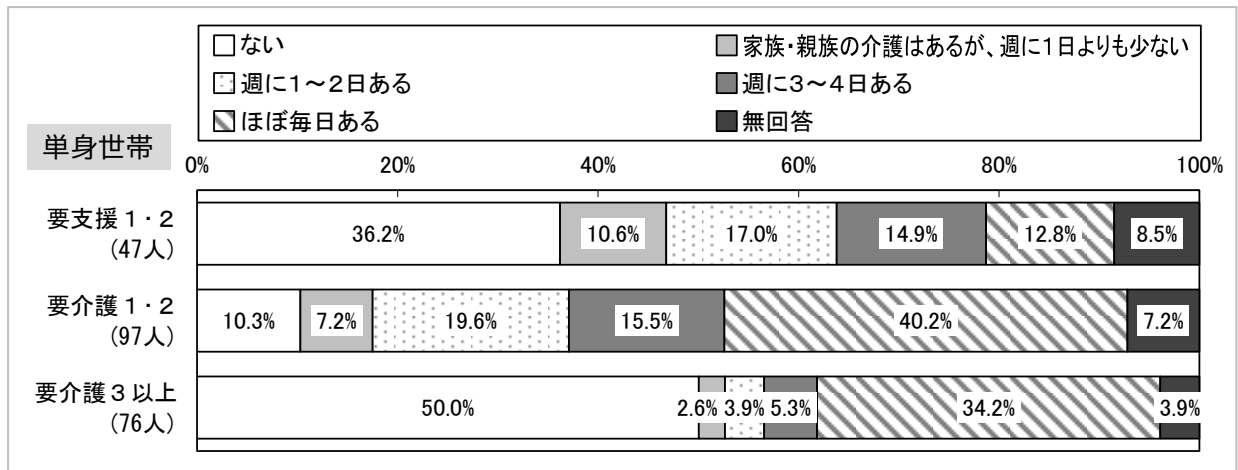


⑥家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度をみると、「ほぼ毎日」が 49.5%（前回 50.3%）であり、日常的に介護を行っている割合が半数を占めている。要介護度が上がると「ほぼ毎日」の割合も高くなり、要介護３以上では 59.1%（前回 62.1%）となっている。また、世帯でみると「その他の世帯」では要介護１・２以上で 69.8%（前回 64.1%）、要介護３以上では 81.0%（前回 70.0%）が「ほぼ毎日ある」と回答している。

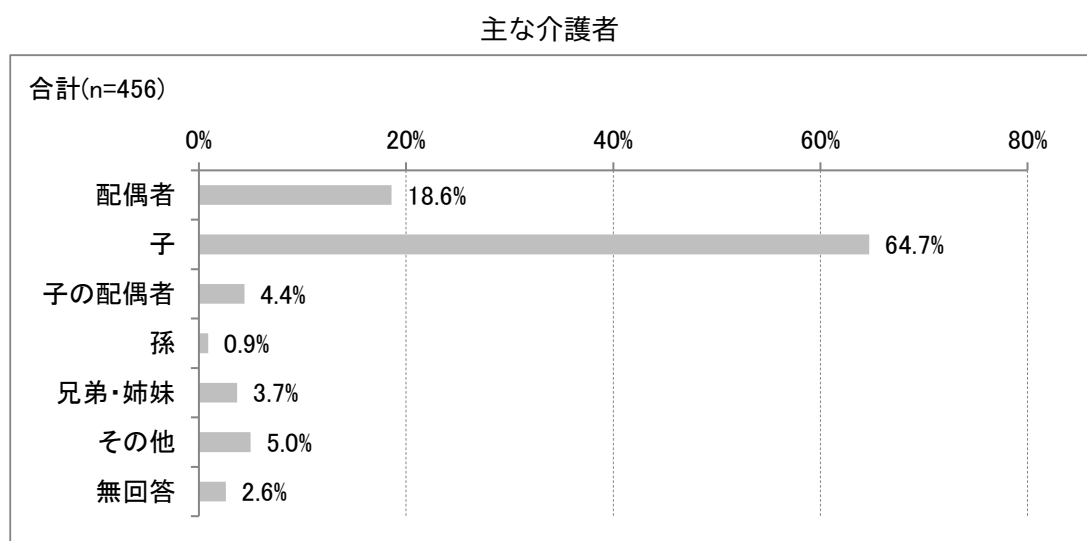
要介護度別・家族等による介護の頻度





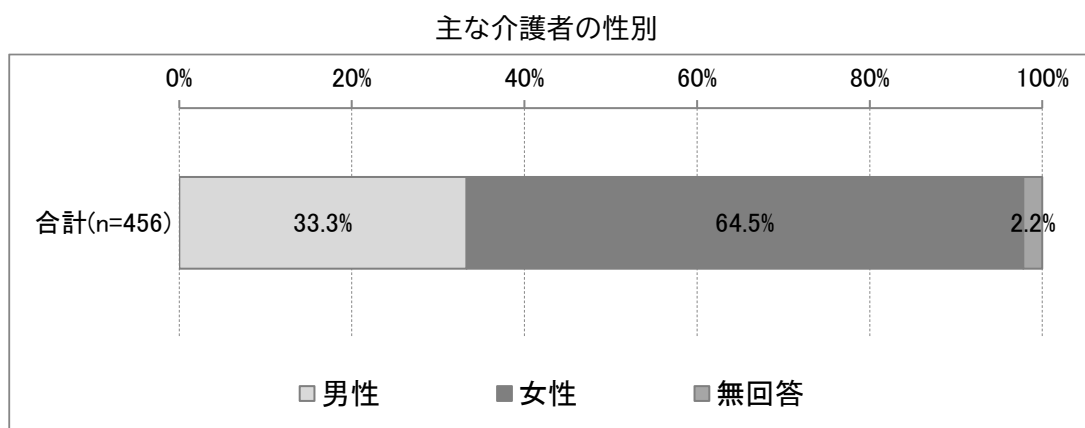
⑦-1 主な介護者

主な介護者は、「子」が64.7%で圧倒的に高くなっている。また、「配偶者」が18.6%、「子の配偶者」が4.4%、「兄弟・姉妹」が3.7%となっている。



⑦-2 主な介護者の性別

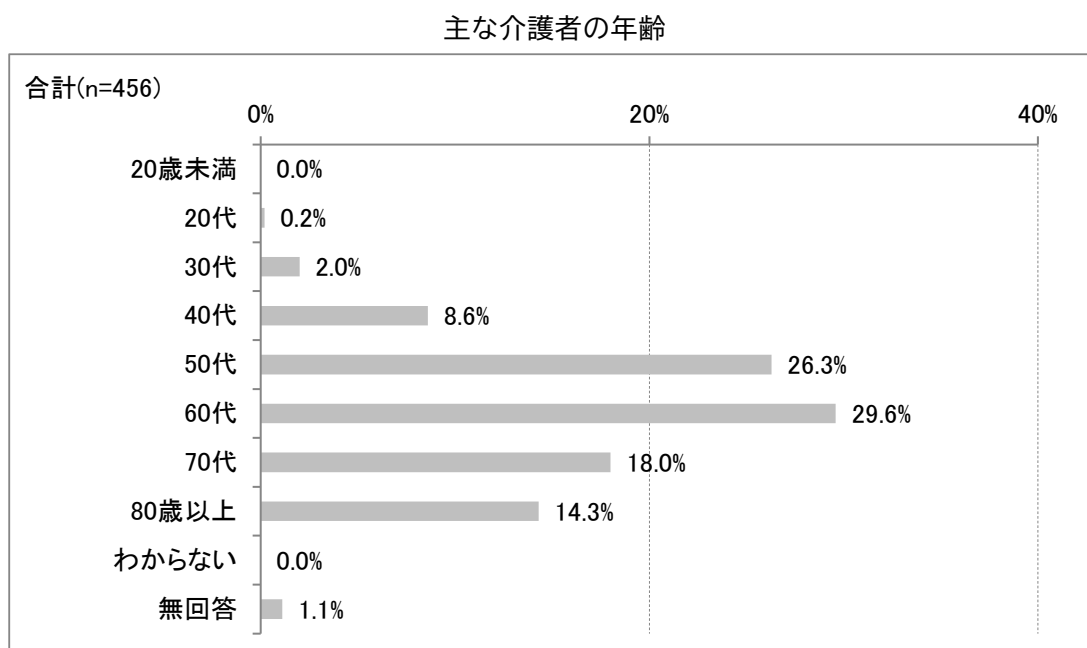
主な介護者の性別は、「女性」が64.5%と6割を超え、「男性」が33.3%となっている。



⑦-3 主な介護者の年齢

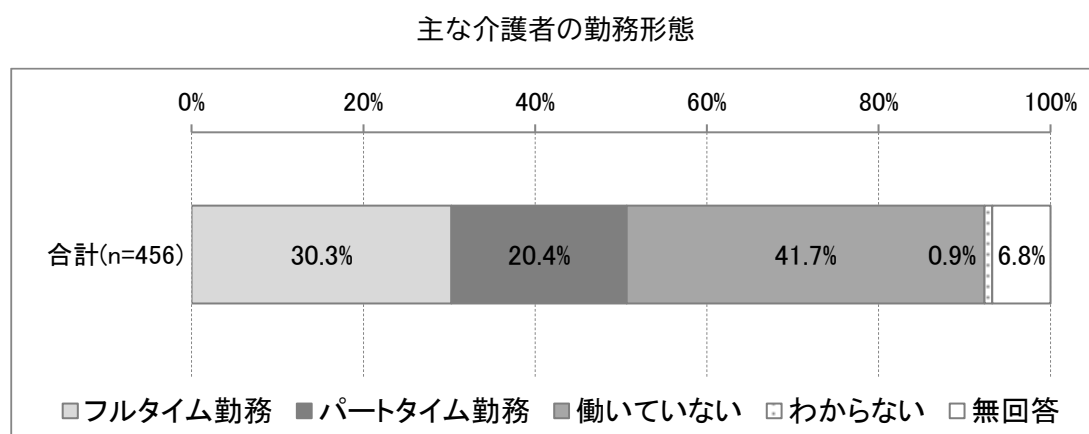
主な介護者の年齢は、「60代」が29.6%（前回25.1%）、「50代」が26.3%（前回26.8%）であり、これら2つの年代を合わせると55.9%（前回51.9%）で、5割半ばを超える。また、「70代」は18.0%（前回17.4%）、「80歳以上」は14.3%（前回16.9%）であり、70歳以上の介護者が32.3%（前回34.3%）を占めている。

本調査では、主な介護者の年齢に「20歳未満」の選択肢も設け、ヤングケアラーの状況把握も試みた。20歳未満という回答は0.0%であった。



⑦-4 主な介護者の勤務形態

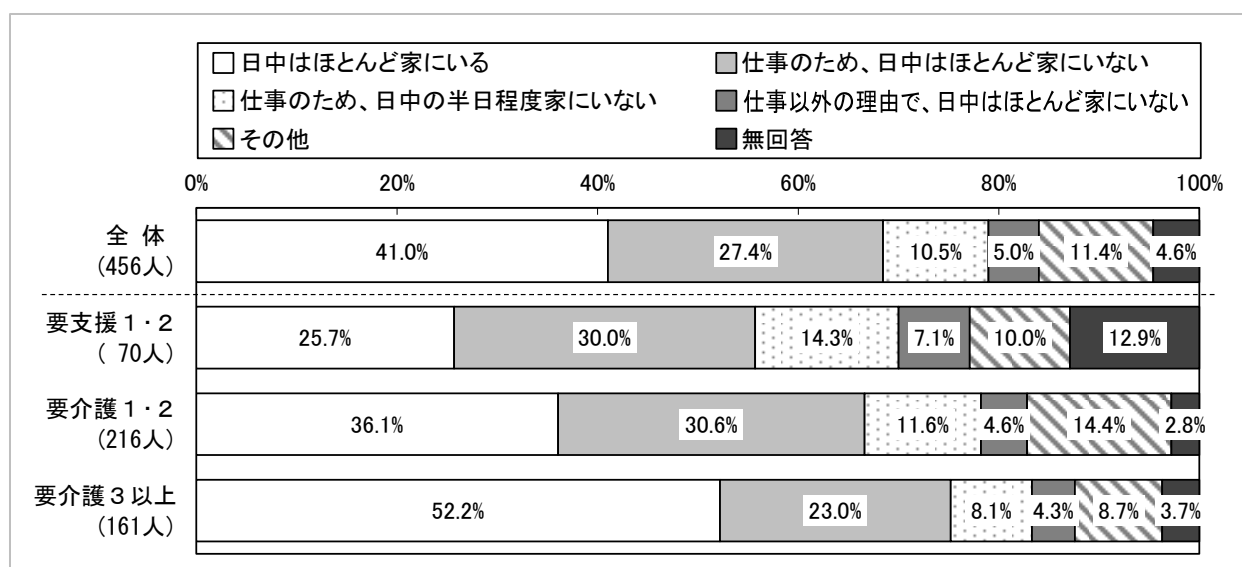
主な介護者の勤務形態をみると、「働いていない」が41.7%（前回45.0%）で最も高い。「フルタイム勤務」は30.3%（前回25.9%）、「パートタイム勤務」が20.4%（前回19.2%）であり、働いている介護者は50.7%（前回45.1%）となっている。



⑦-5 介護者は日中、在宅しているか

介護者の日中の在宅状況を見ると、「日中はほとんど家にいる」が41.0%（前回42.3%）で最も高いものの、「家にいない」の合計（「仕事のため」、「仕事以外の理由で、」等の合計）は42.9%（前回38.7%）あり、特に「仕事のため、日中はほとんど家にいない」は27.4%（前回25.7%）となっている。

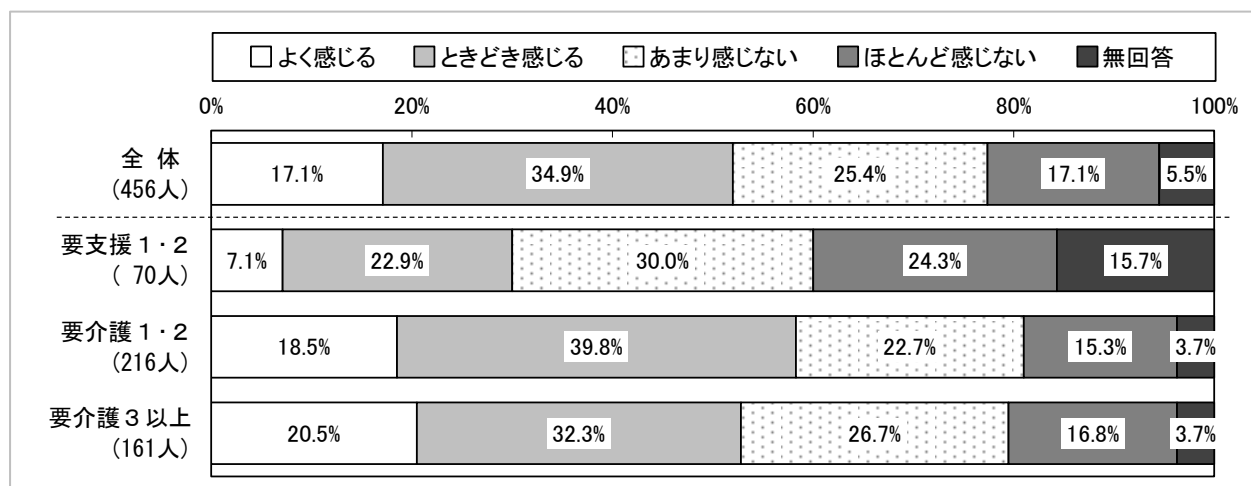
要介護度別・介護者は日中、在宅しているか



⑦-6 介護者の孤独感

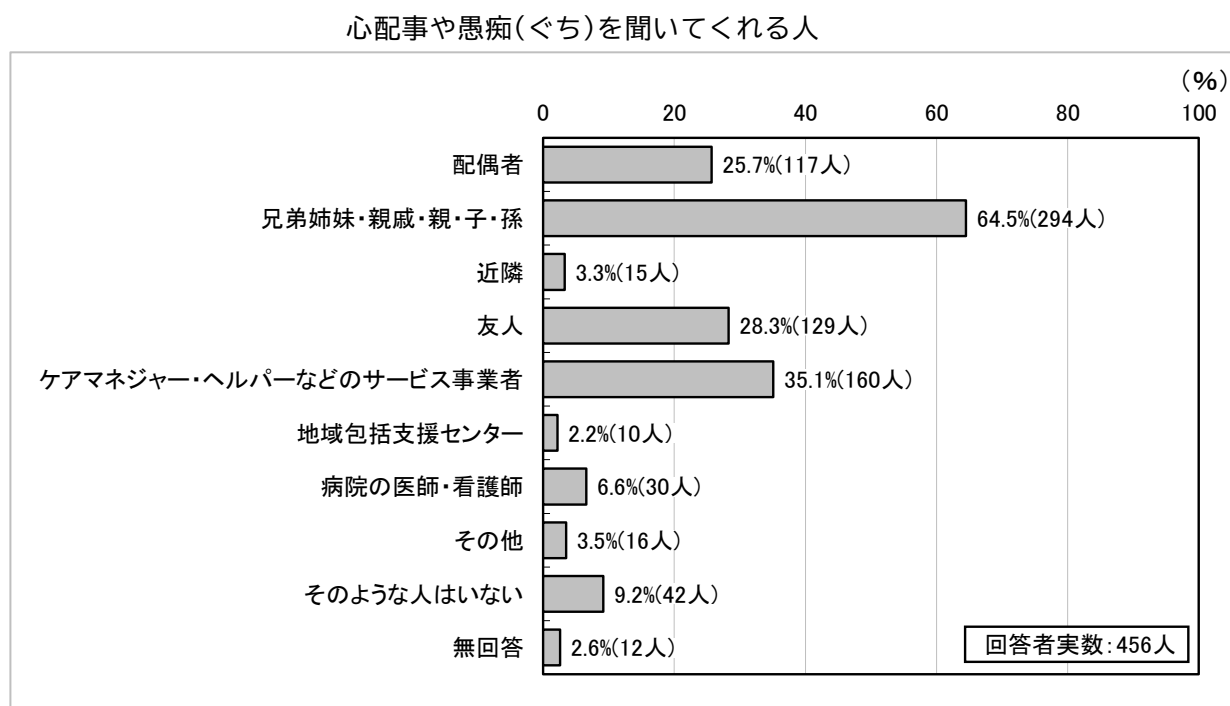
介護者の孤独感についてみると、「ときどき感じる」が34.9%（前回34.1%）で比較的高い。「よく感じる」の17.1%（前回19.0%）と合わせると、孤独感がある介護者は52.0%（前回53.1%）となる。また、要介護度別にみると、孤独感がある介護者は、要介護1・2で58.3%（前回54.6%）、要介護3以上は52.8%（前回57.9%）であり、要支援者に比べて高い。

要介護度別・介護者の孤独感



⑧心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人

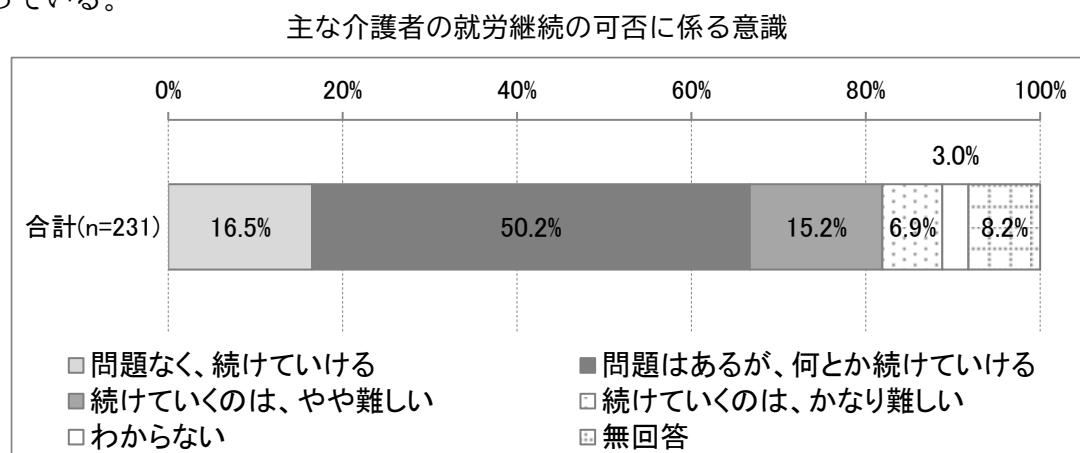
介護者の心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「兄弟姉妹・親戚・親・子・孫」が64.5%（前回 64.0%）で最も高い。また、「ケアマネジャー・ヘルパーなどのサービス事業者」が35.1%（前回 38.9%）、「友人」が28.3%（前回 26.2%）、「配偶者」が25.7%（前回 26.4%）と続いている。



⑨-1 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の意識を尋ねたところ、「問題はあるが、なんとか続けていける」が50.2%（前回 60.2%）で5割を占めている。「問題なく続けていける」は16.5%（前回は14.4%）であり、これら2つを合わせると、継続できるという回答が66.7%（前回 74.6%）となっている。

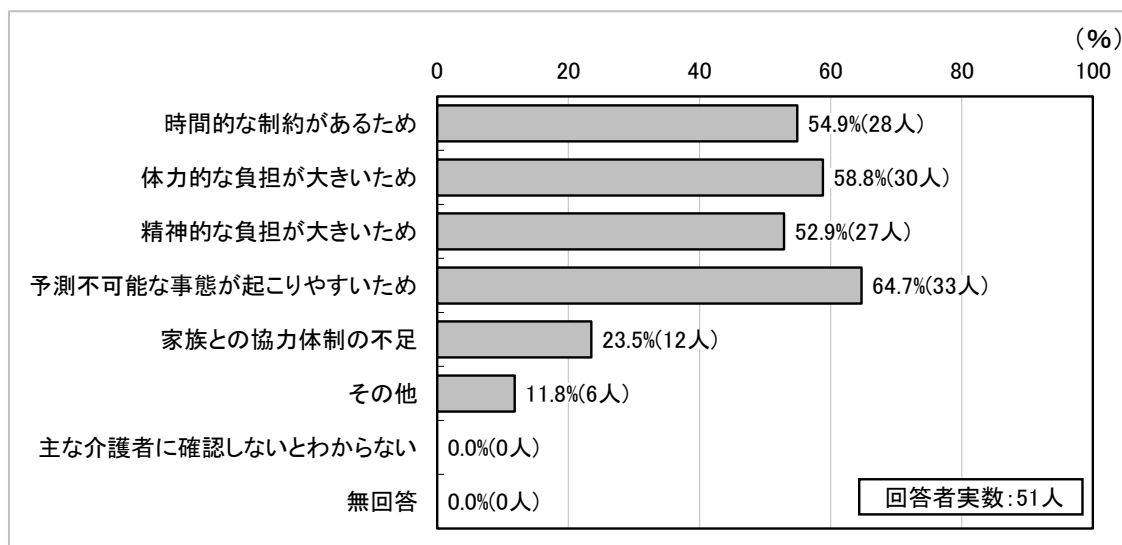
「続けていくのは、やや難しい」が15.2%（前回 8.3%）、「続けていくのは、かなり難しい」が6.9%（前回 5.6%）であり、就労継続が困難と考えている介護者は22.1%（前回 13.9%）となっている。



⑨-2 働きながら介護を続けていくことが難しい理由

前項で「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と回答した人に対し、働きながら介護を続けていくことが難しい理由を尋ねたところ、「予測不可能な事態が起きやすいため」が64.7%で最も高いほか、「体力的な負担が大きいため」が58.8%、「時間的な制約があるため」が54.9%、「精神的な負担が大きいため」が52.9%で5割を超えている。

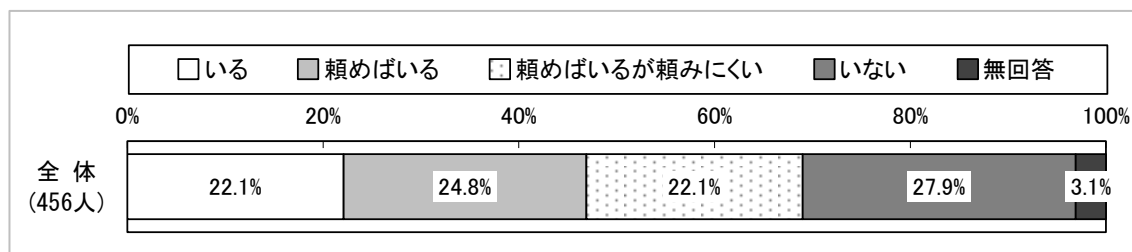
働きながら介護を続けていくことが難しい理由



⑩あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人

あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人については、「いない」が27.9%と最も高く、「いる」が22.1%、「頼めばいる」が24.8%、「頼めばいるが頼みにくい」が22.1%となっている。

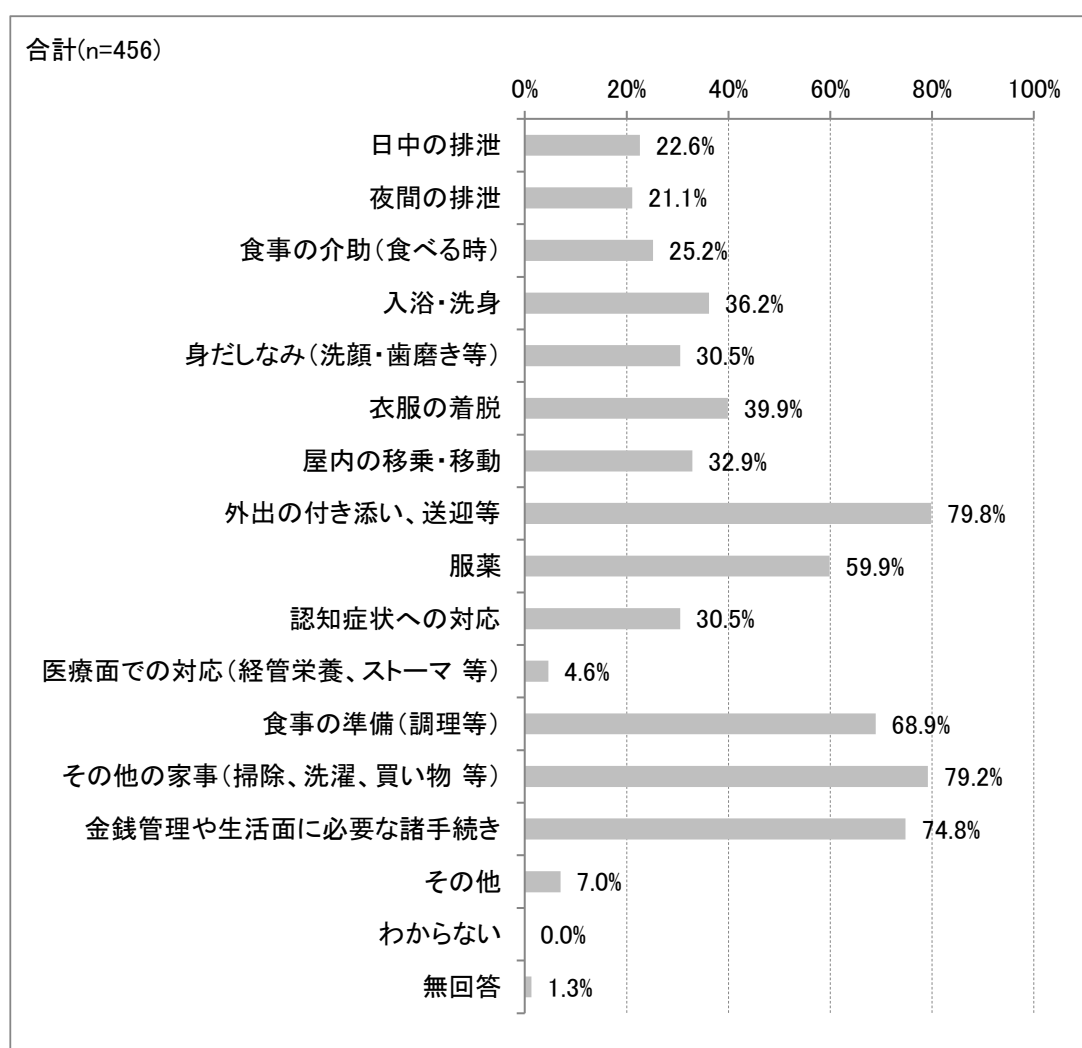
あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人



⑪主な介護者の方が行っている介護等

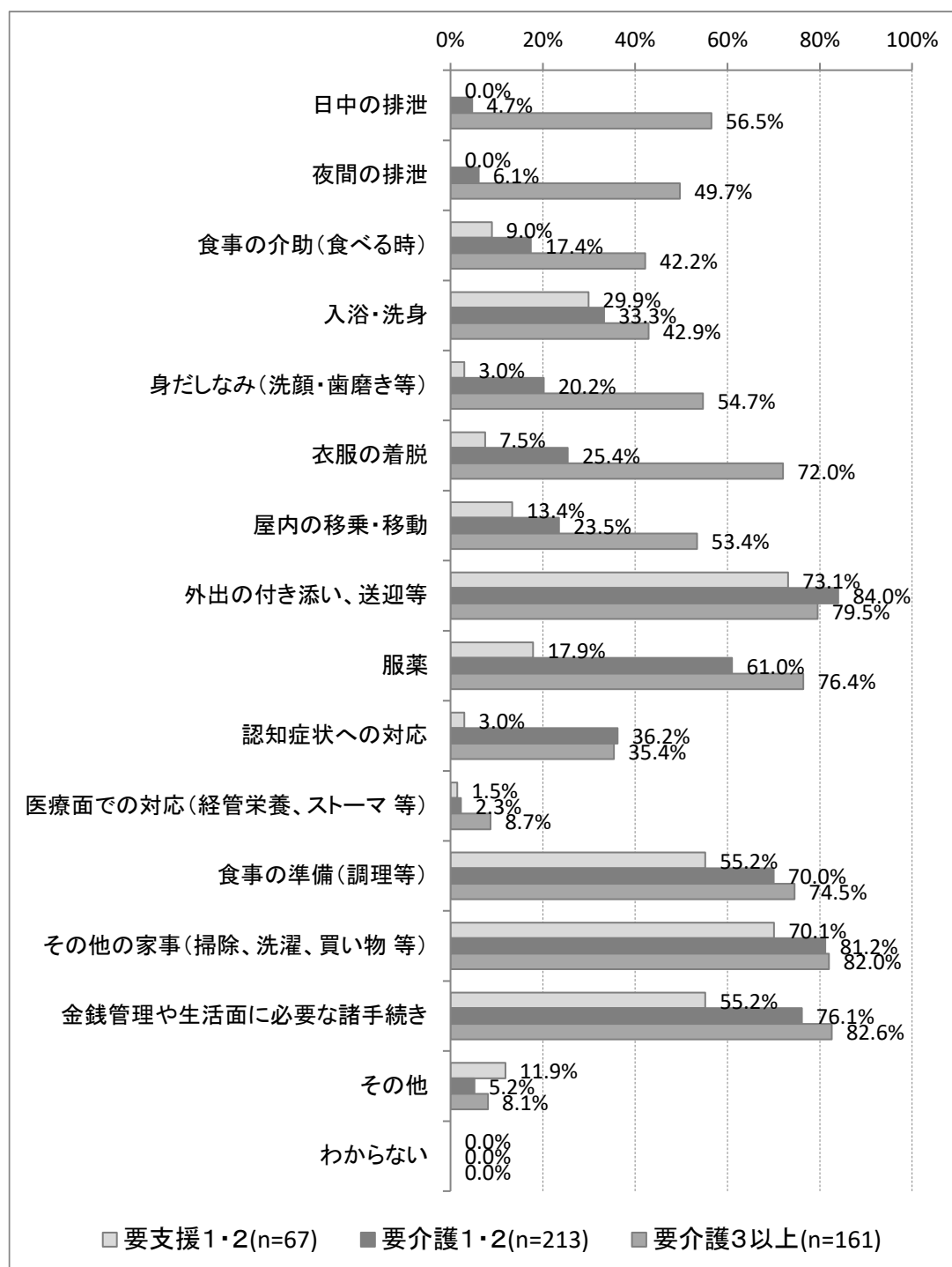
主な介護者が行っている介護としては、「外出の付き添い、送迎等」の79.8%（前回76.6%）、
「その他の家事（掃除・洗濯、買い物等）」の79.2%（前回77.0%）で8割を占めているほか、
「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」も74.8%（前回70.7%）あり、これら3つが特に高
くなっている。また、「食事の準備（調理等）」が68.9%（前回67.6%）で7割を占めている。

主な介護者の方が行っている介護等



要介護度別にみると、各要介護度とも先に示した「外出の付き添い、送迎等」などが高いが、要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣類の着脱」「屋内の移乗・移動」がほかの介護度よりも非常に高く、要介護3以上の中重度では、身体の介助・介護を行う度合いが大幅に高くなっている。

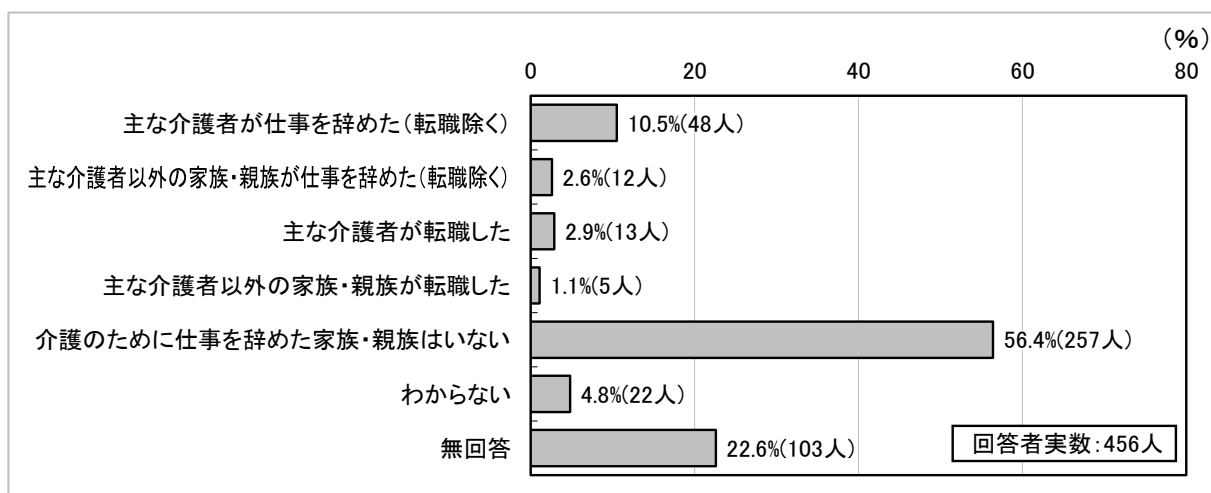
要介護度別・主な介護者の方が行っている介護等



⑫ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として仕事を辞めた方

介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた又は転職したか尋ねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が56.4%で圧倒的に高くなっている。「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は10.5%となっている。

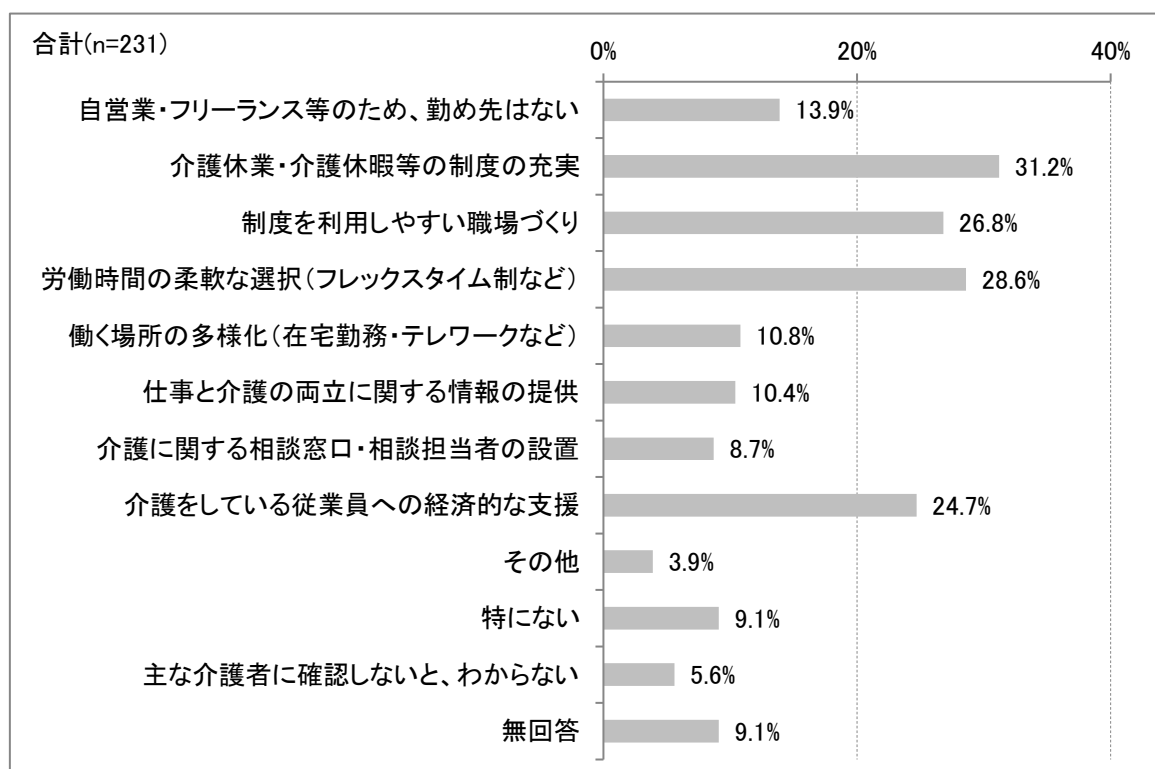
ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として仕事を辞めた方



⑬仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

勤め先に支援してほしいことでは、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.2%(前回31.0%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」28.6%(前回20.8%)、「制度を利用しやすい職場づくり」26.8%(前回26.9%)が高くなっている。

仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと



仕事と介護の両立状況別にみると、「問題なく、続けていける」という介護者では、「制度を利用しやすい環境づくり」が高くなっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」という介護者では、「介護休業・介護休暇等の充実」、「労働時間の柔軟な選択」が高い。

「仕事と介護の両立がやや難しい」という介護者では、「介護休業・介護休暇等の充実」や「労働時間の柔軟な選択」のほか、「介護をしている従業員への経済的な支援」が高い。

「続けていくのは、かなり難しい」という介護者では、「介護休業・介護休暇等の充実」のほか、「介護をしている従業員への経済的な支援」、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」を求める割合が高くなっている。

仕事と介護の両立状況別・仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

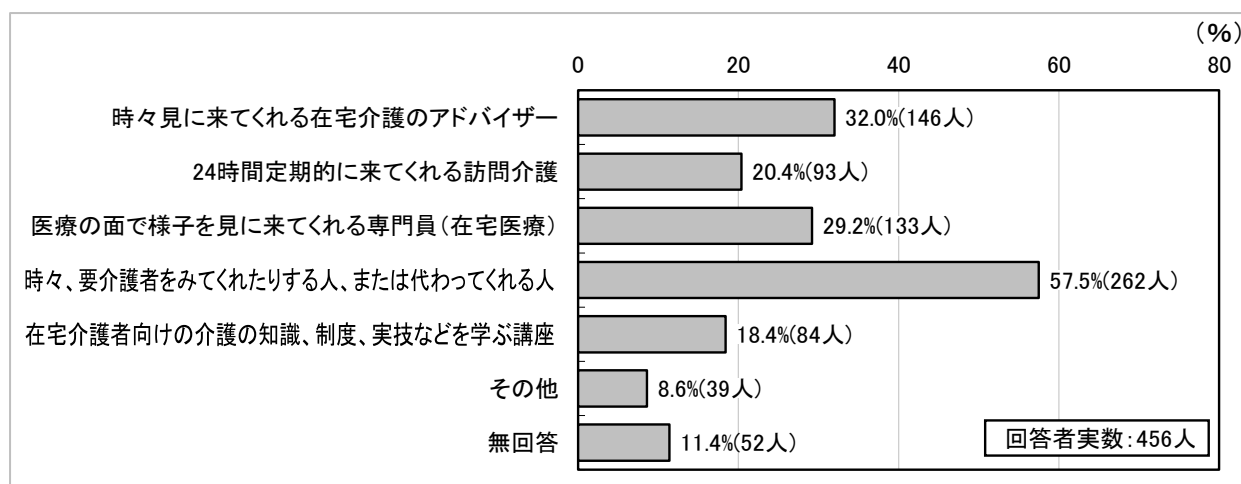
	回答者 実数	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供
問題なく、続けていける	38 人	5.3% (2 人)	18.4% (7 人)	34.2% (13 人)	21.1% (8 人)	7.9% (3 人)	10.5% (4 人)
問題はあるが、何とか続けていける	116 人	17.2% (20 人)	40.5% (47 人)	27.6% (32 人)	35.3% (41 人)	13.8% (16 人)	12.9% (15 人)
続けていくのは、やや難しい	35 人	17.1% (6 人)	34.3% (12 人)	31.4% (11 人)	34.3% (12 人)	11.4% (4 人)	5.7% (2 人)
続けていくのは、かなり難しい	16 人	25.0% (4 人)	37.5% (6 人)	18.8% (3 人)	12.5% (2 人)	6.3% (1 人)	6.3% (1 人)
主な介護者に確認しないと、わからない	7 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)

	回答者 実数	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
問題なく、続けていける	38 人	7.9% (3 人)	18.4% (7 人)	2.6% (1 人)	23.7% (9 人)	10.5% (4 人)	2.6% (1 人)
問題はあるが、何とか続けていける	116 人	9.5% (11 人)	25.0% (29 人)	2.6% (3 人)	6.9% (8 人)	1.7% (2 人)	5.2% (6 人)
続けていくのは、やや難しい	35 人	2.9% (1 人)	37.1% (13 人)	8.6% (3 人)	5.7% (2 人)	0.0% (0 人)	8.6% (3 人)
続けていくのは、かなり難しい	16 人	31.3% (5 人)	37.5% (6 人)	0.0% (0 人)	6.3% (1 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)
主な介護者に確認しないと、わからない	7 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	100.0% (7 人)	0.0% (0 人)

⑭在宅介護を続ける上で必要なこと

主な介護者が在宅介護を続ける上で必要なこととしては、「時々、要介護者をみてくれたりする人、または代わってくれる人」が圧倒的に高いほか、「時々見に来てくれる在宅介護のアドバイザー」、「医療の面で様子を見に来てくれる専門員（在宅医療）」が比較的高くなっている。要介護度でみると、「時々、要介護者をみてくれたりする人、または代わってくれる人」が、要支援に比べ、要介護1・2と要介護3以上で高くなっており、約6割を占めている。また、「医療の面で様子を見に来てくれる専門員（在宅医療）」、「24時間定期的に来てくれる訪問介護」では、要介護3以上で割合が高くなっている。

在宅介護を続ける上で必要なこと



要介護度別・地区別・在宅介護を続ける上で必要なこと

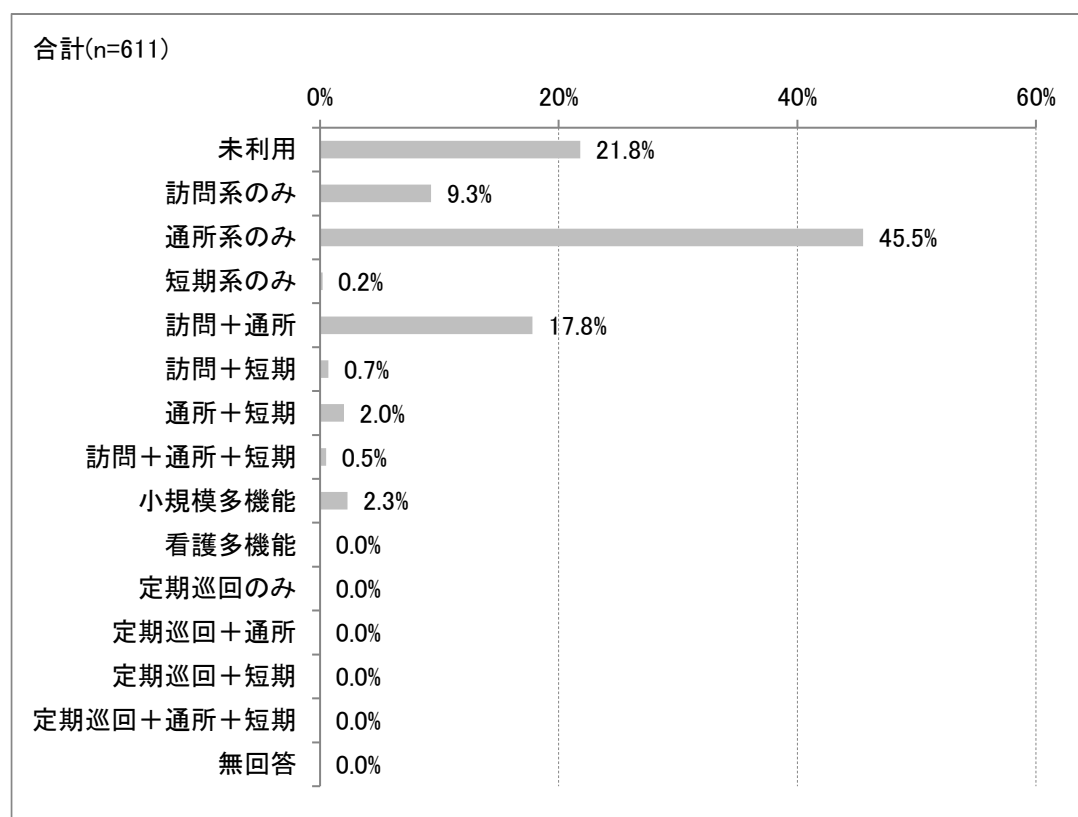
	回答者実数	時々見に来てくれる在宅介護のアドバイザー	24時間定期的に来てくれる訪問介護	医療の面で様子を見に来てくれる専門員(在宅医療)	時々、要介護者をみてくれたりする人、または代わってくれる人	在宅介護者向けの介護の知識、制度、実技などを学ぶ講座	その他	無回答
要支援1・2	70人	37.1% (26人)	8.6% (6人)	18.6% (13人)	35.7% (25人)	12.9% (9人)	15.7% (11人)	17.1% (12人)
要介護1・2	216人	32.9% (71人)	19.0% (41人)	25.9% (56人)	62.5% (135人)	21.3% (46人)	6.0% (13人)	10.6% (23人)
要介護3以上	161人	29.2% (47人)	26.1% (42人)	37.9% (61人)	59.0% (95人)	18.0% (29人)	8.7% (14人)	10.6% (17人)
普天間地区	104人	30.8% (32人)	14.4% (15人)	18.3% (19人)	69.2% (72人)	13.5% (14人)	11.5% (12人)	8.7% (9人)
宜野湾地区	130人	26.2% (34人)	22.3% (29人)	30.0% (39人)	57.7% (75人)	18.5% (24人)	6.9% (9人)	12.3% (16人)
嘉数地区	106人	37.7% (40人)	20.8% (22人)	31.1% (33人)	53.8% (57人)	17.9% (19人)	6.6% (7人)	12.3% (13人)
真志喜地区	116人	34.5% (40人)	23.3% (27人)	36.2% (42人)	50.0% (58人)	23.3% (27人)	9.5% (11人)	12.1% (14人)

⑮ サービス利用の組み合わせ

介護サービス利用の組み合わせについてみると、「通所系のみ」が 45.5%、「未利用」（住宅改修や福祉用具利用は除く）が 21.8%となっている。

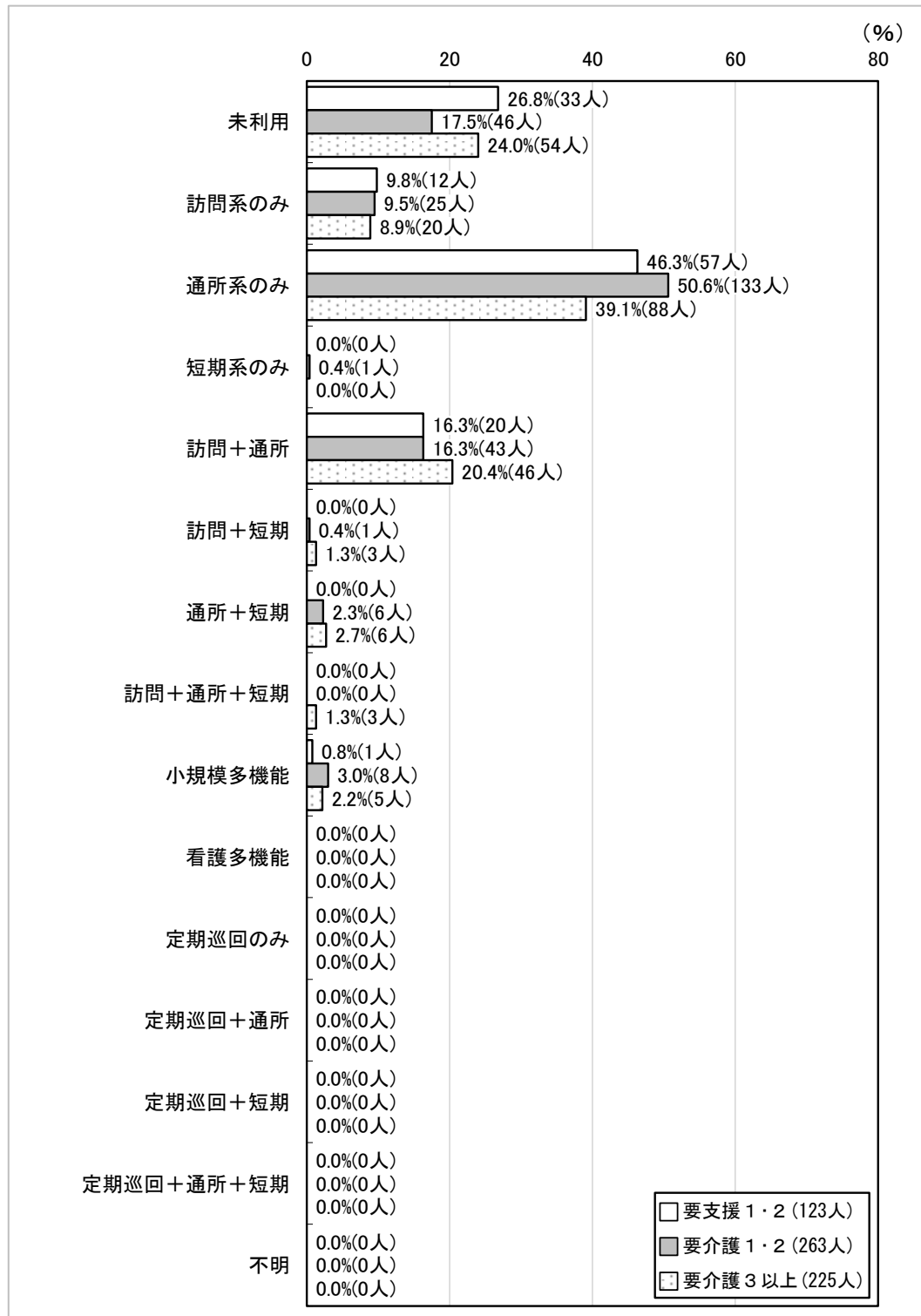
訪問系については、「訪問系のみ」が 9.3%、「訪問＋通所」が 17.8%、「訪問＋短期（入所）」が 0.7%であり、訪問系サービスの利用率が低いことがわかる。

サービス利用の組み合わせ



要介護度別にみると、「通所系のみ」は要介護１・２で高く 50.6%であるが、要介護３以上でも 39.1%あり、重度者での通所利用率が約４割となっている。要介護３以上で「訪問系のみ」は 8.9%、「訪問＋通所」は 20.4%となっている。またサービス未利用（福祉用具利用と住宅改修を除く）は、要介護３以上で 24.0%となっている。

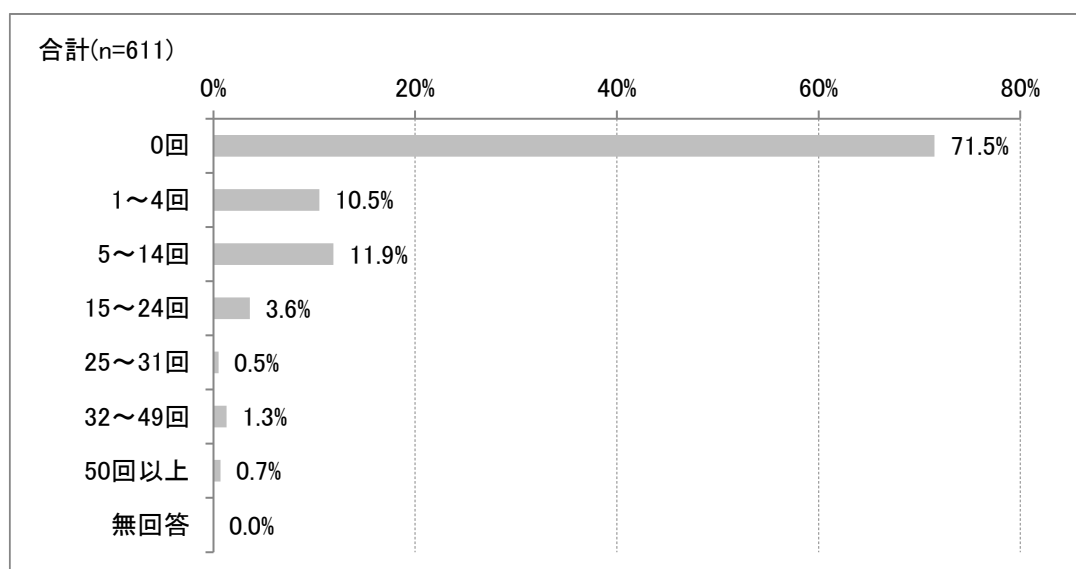
要介護度別・サービス利用の組み合わせ



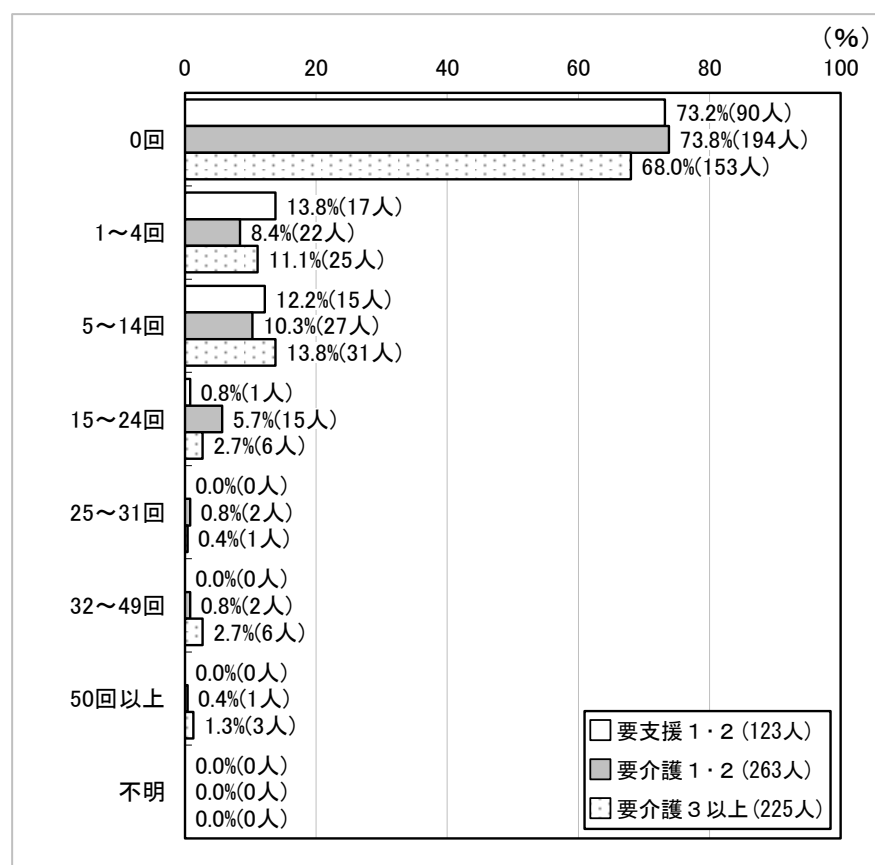
⑩訪問系サービス利用回数

訪問系サービスの月あたりの利用回数をみると、「0回」が71.5%で圧倒的に高い。利用者では「1～4回」が10.5%、「5～14回」が11.9%であり、15回以上の利用は6.1%ほどにとどまっている。要介護度別での利用回数にも大差はない。

訪問系サービス利用回数



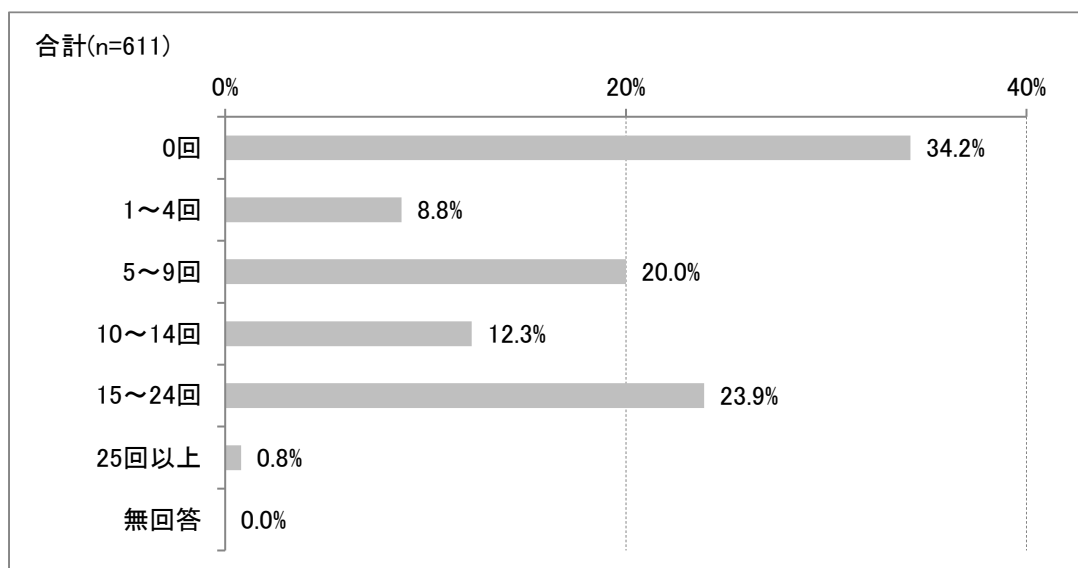
要介護度別・訪問系サービス利用回数



⑰通所系サービス利用回数

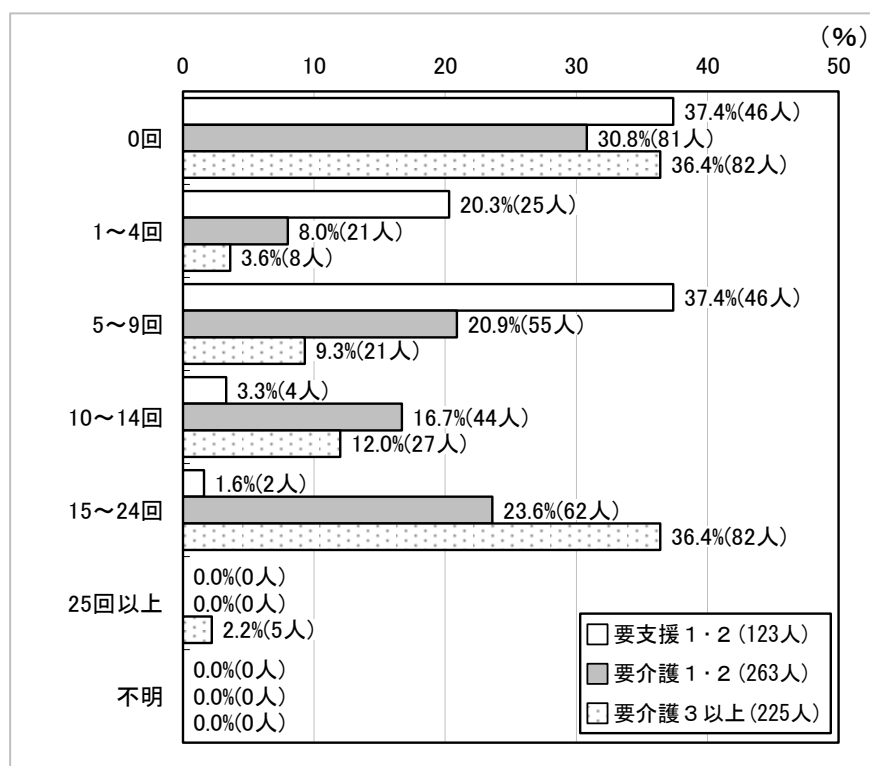
通所系サービスの月あたりの利用回数をみると、「0回」が34.2%で最も高い。利用者では月「15～24回」の23.9%と「5～9回」の20.0%がそれぞれ2割を超えており高いほか、「10～14回」が12.3%となっている。

通所系サービス利用回数



通所系サービス利用者の利用回数を要介護度別にみると、「5～9回」までは要支援1・2で高いが、「10～14回」は要介護1・2が高い。要介護3以上は「15～24回」が最も高く、36.4%を占めている。要介護3以上の中重度者では、頻回な利用が見られる。

要介護度別・通所系サービス利用回数

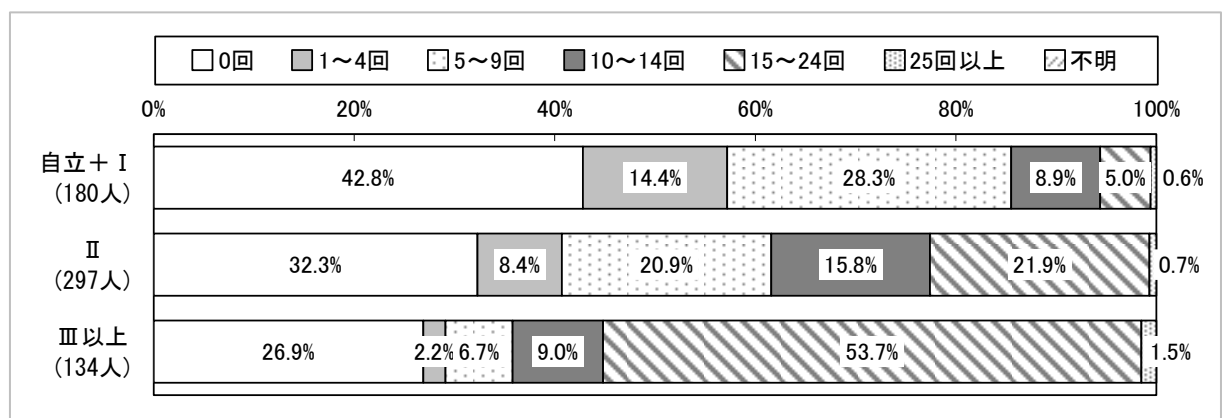


通所系サービス利用者の利用回数では、10回以上の頻回な利用が多い。頻回な利用は、どのような人で多くなっているかみると、

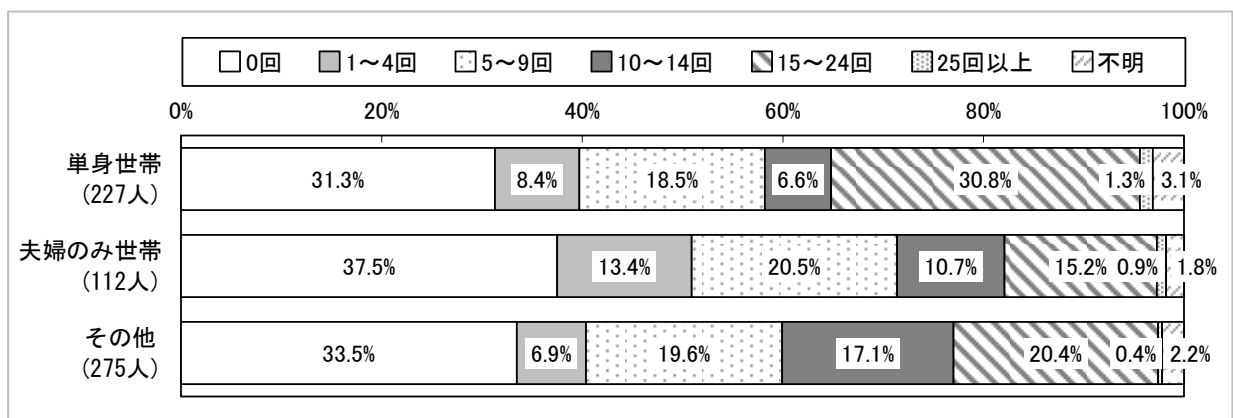
- ・要介護度：要介護3以上（48.4%）
- ・認知高齢者自立度：Ⅲ以上（日常生活上困難さが見られる）（62.7%）
- ・世帯類型：単身世帯（38.7%）、その他世帯（3人以上の同居世帯等）（37.9%）
- ・施設入所希望：すでに入所申請済み（58.5%）
- ・検討理由：在宅介護者の負担軽減のため（48.3%）
- ・住まい別：有料老人ホーム居住者（79.5%）

このような傾向が見られた。特に重度者・認知症状の重度者、施設入所を申請又は希望している人が多いことや、有料老人ホーム利用者での頻回な利用が見られた。今回の集計結果を踏まえながら、通所系サービスを頻回利用している実情をより把握し、課題解決の施策を検討する必要がある。

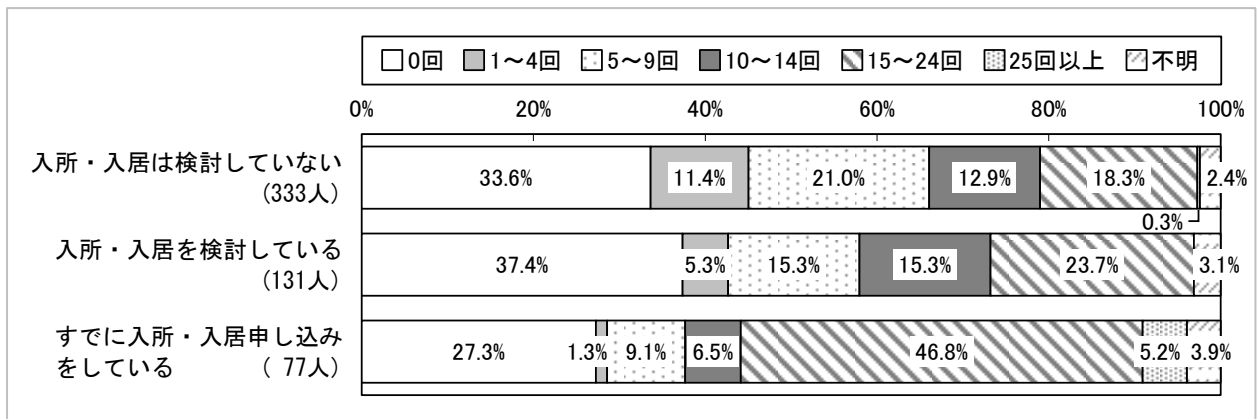
認知症高齢者自立度別・通所系サービス利用回数



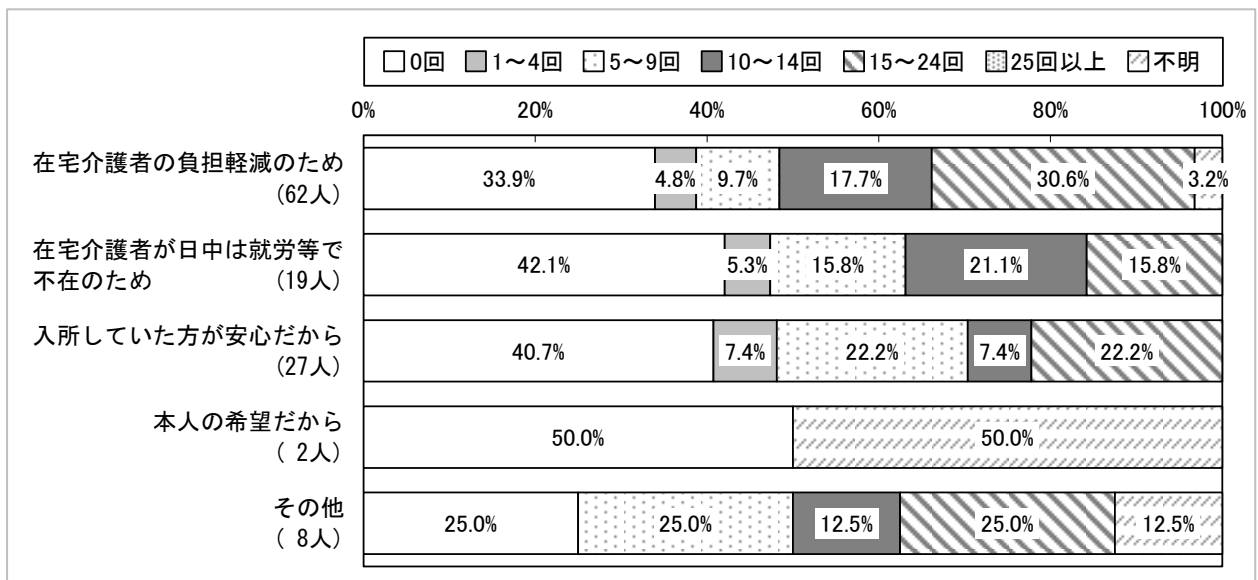
世帯類型別・通所系サービス利用回数



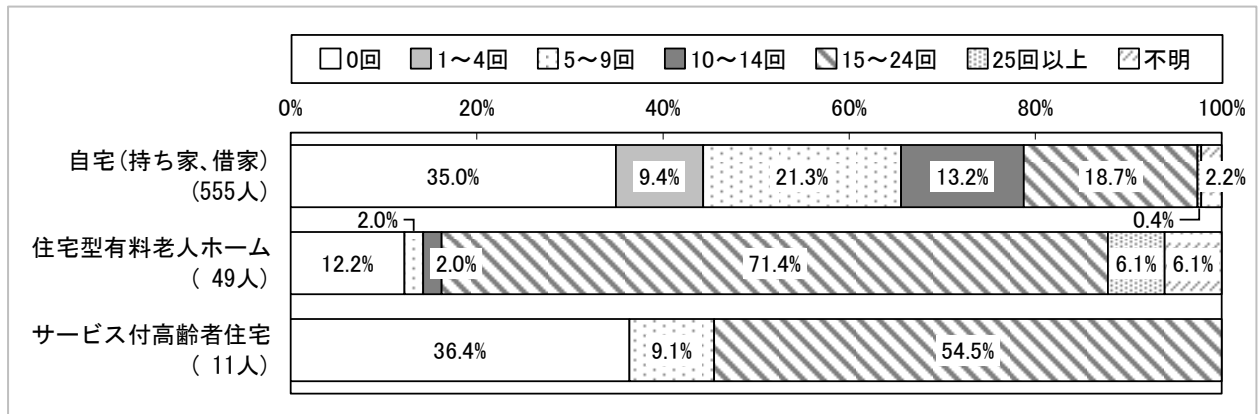
施設等検討の状況別・通所系サービス利用回数



施設等に入所・入居の検討理由別・通所系サービス利用回数



現在の住居別・通所系サービス利用回数



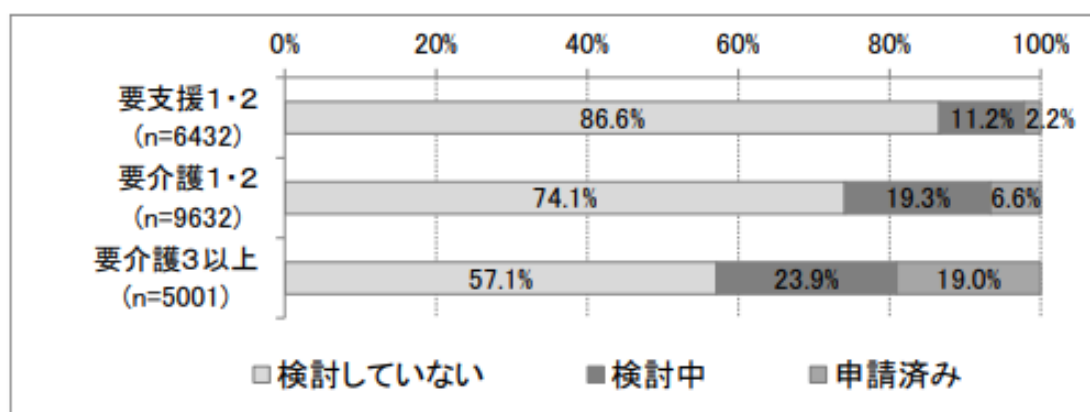
(2)施設等検討の状況

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎施設等に「申請済み」の割合は、要介護３以上で19.0%

- ・全国の要介護度別の施設等検討の状況をみると、要介護３以上では要介護度の重度化に伴い「申請済み」の割合が高くなっており、19.0%となっている。
- ・なお、「検討していない」の割合の減少幅は、要支援１・２(86.6%)から要介護１・２(74.1%)になる段階で▲12.5ポイント、要介護１・２から要介護３以上(57.1%)になる段階で▲17.0ポイントとなっている。

要介護度別・施設等検討の状況



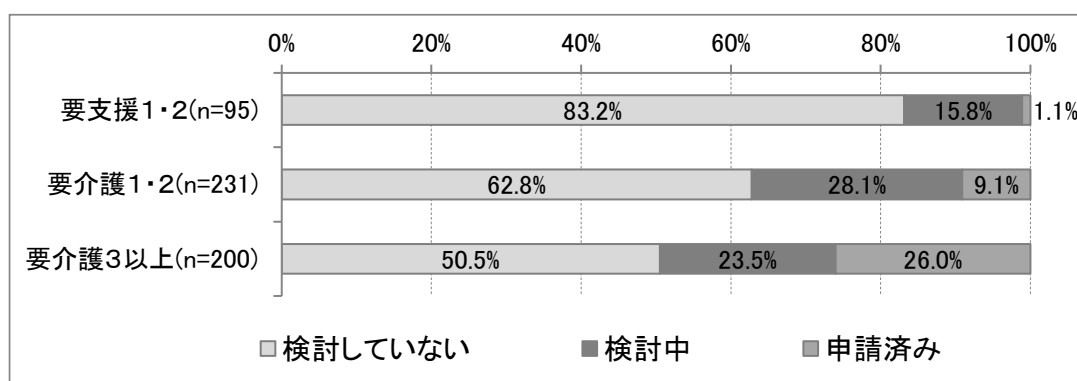
②-1 市の調査結果では……

市の要介護度別の「施設等検討の状況」では、要介護３以上では「申請済み」が26.0%（前回21.8%）となっている。

「検討していない」については、すべての介護度で全国より下回っており、要介護３以上は50.5%（前回56.5%）で、全国の57.1%を下回っている。

また、前回調査では、要介護３以上の「申請済み」が21.8%であり、今回調査ではこの割合が26.0%に伸びている。

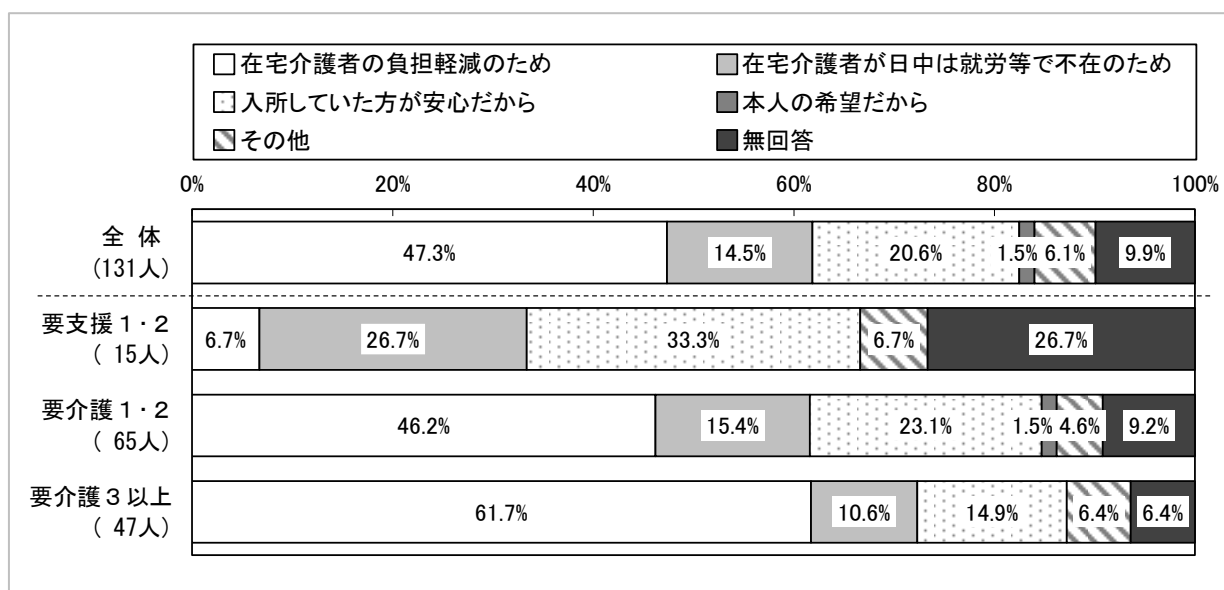
要介護度別・施設等検討の状況



②-2 施設等検討理由（市の調査結果）

施設入所の検討理由をみると、最も高いのは「在宅介護者の負担軽減のため」の47.3%（前回40.2%）で、「入所していた方が安心だから」の20.6%（前回23.2%）がこれに次いで高い。要介護度別にみると、要介護度が上がるにつれて「在宅介護者の負担軽減のため」が高くなっており、要介護3以上では61.7%（前回51.4%）を占めている。

要介護度別・施設等検討の理由

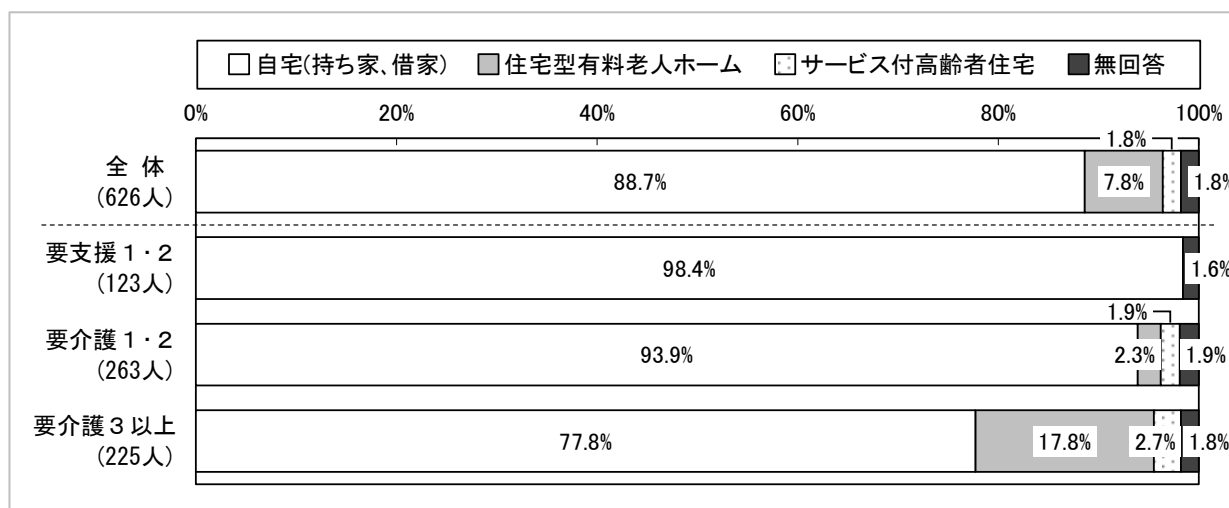


②-3 現在の住まい（市の調査結果）

現在の住まいについては、「自宅(持ち家、借家)」が88.7%が圧倒的に高い。「住宅型有料老人ホーム」が7.8%、「サービス付高齢者住宅」が1.8%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2と要介護1・2は「自宅(持ち家、借家)」が圧倒的に高く90%を超えるが、要介護3以上では「自宅(持ち家、借家)」は77.8%と下がり、「住宅型有料老人ホーム」が17.8%と、他の介護度に比べ高くなっている。

要介護度別・現在の住まい

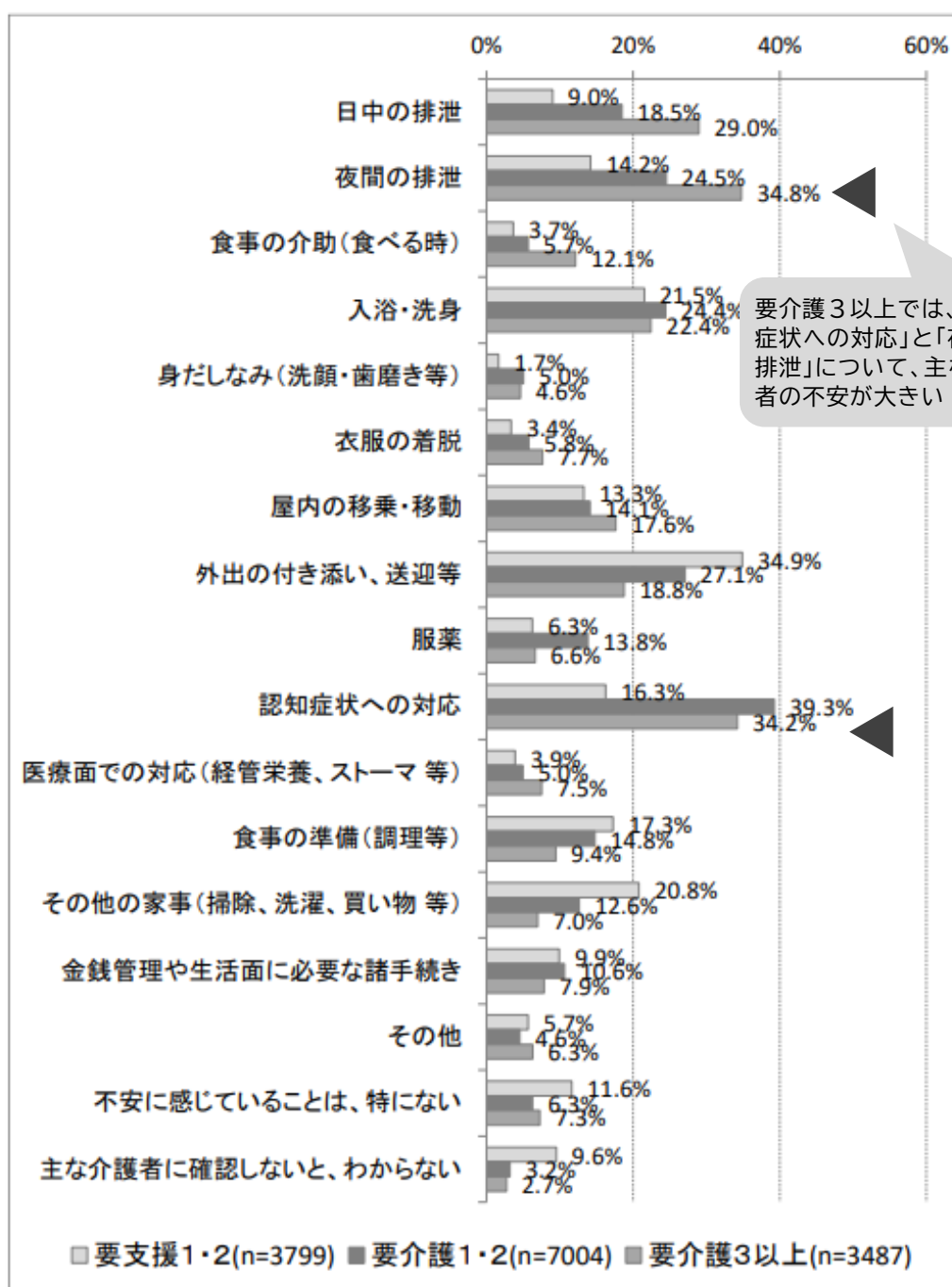


(3)介護者が不安に感じる介護

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

- ◎主な介護者が不安を感じる介護は、要介護3以上では「夜間の排泄」「認知症状への対応」
- ・「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護」について、要介護3以上では、特に「夜間の排泄」と「認知症状への対応」で、主な介護者の不安が大きい傾向となっている。
 - ・したがって、要介護3以上では、主な介護者が「在宅生活の継続が困難」と判断する特に重要なポイントとして、「認知症」と「(夜間の)排泄」の2点が挙げられると考えられる。
 - ・また「認知症状への対応」については、要介護1・2の方が高くなっている。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護

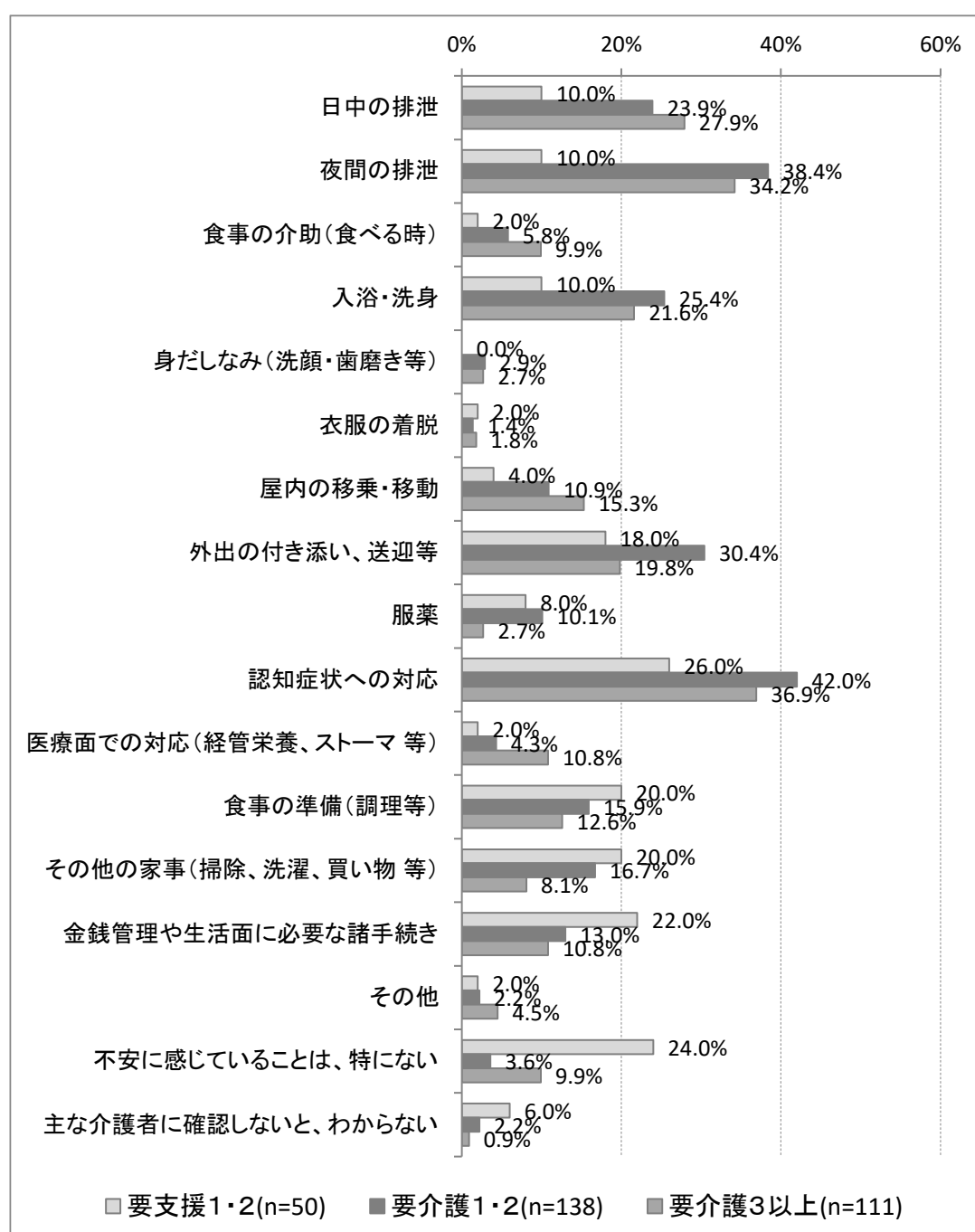


②市の調査結果では……

市では、要介護3以上については「認知症状への対応」、「夜間の排泄」が最も高いほか、「日中の排泄」がこれに次いで高い。また、要介護1・2でも「認知症状への対応」と「夜間の排泄」が特に高く、割合は要介護3以上を上回っている。さらに「外出の付き添い、送迎等」も要介護1・2では高い。要支援1・2も「認知症状への対応」が最も高いほか、「金銭面の管理や諸手続き」、「食事の準備」、「その他の家事」が比較的高い。

在宅介護において、要介護3以上を抱える家庭だけではなく、要介護1・2や要支援1・2を抱える家庭でも、それぞれ特徴となる不安を抱えていることがわかる。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護

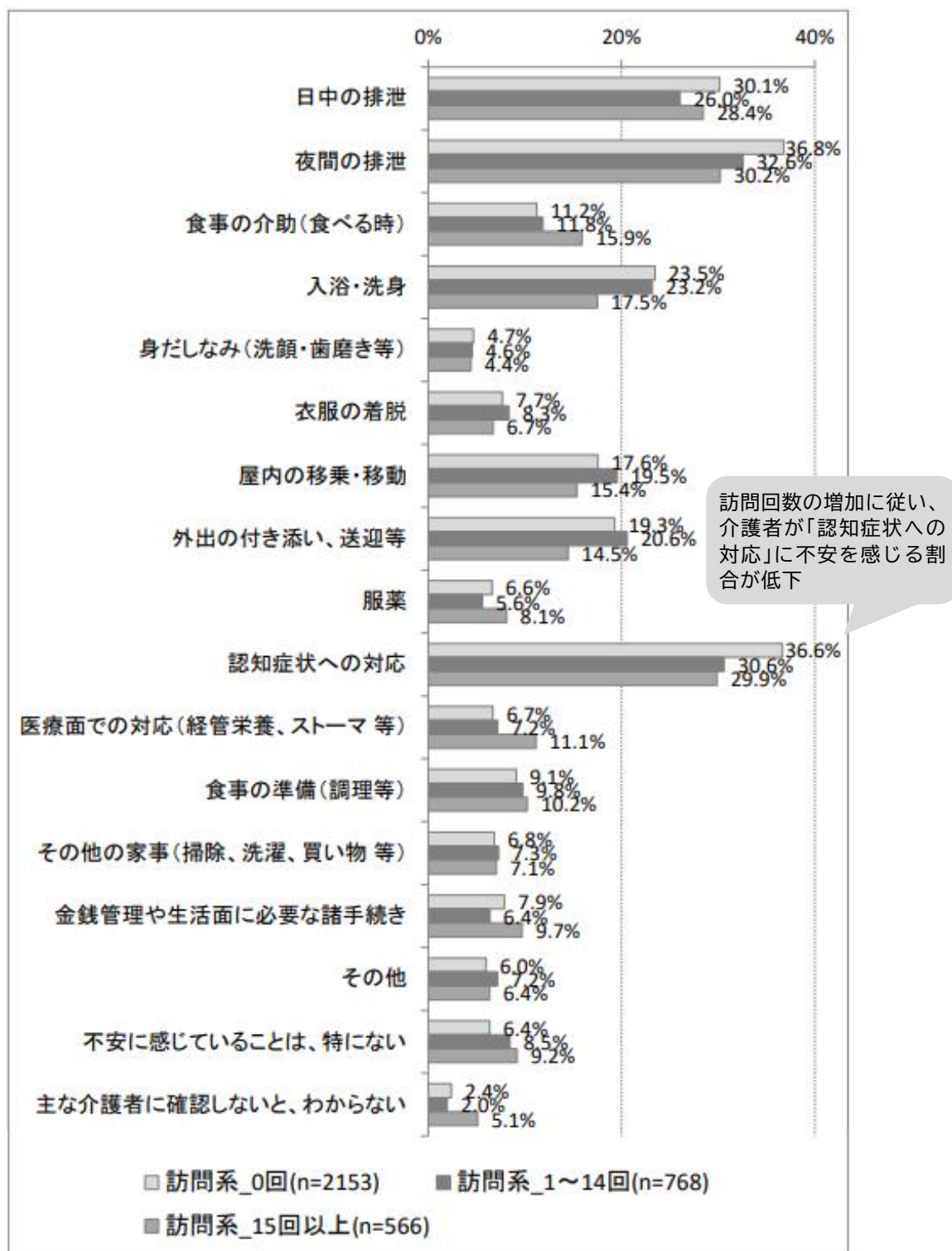


(4)介護者が不安を感じる介護（サービス利用回数別）

①全国（R5在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎「訪問回数の増加」に伴い、介護者の「認知症状への対応」「夜間の排泄」の不安が軽減
 ・「介護者が不安を感じる介護」と「訪問系サービスの利用回数」の関係をみると、訪問系サービスの利用回数の増加とともに、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」について、介護者の不安が軽減する傾向がみられた。

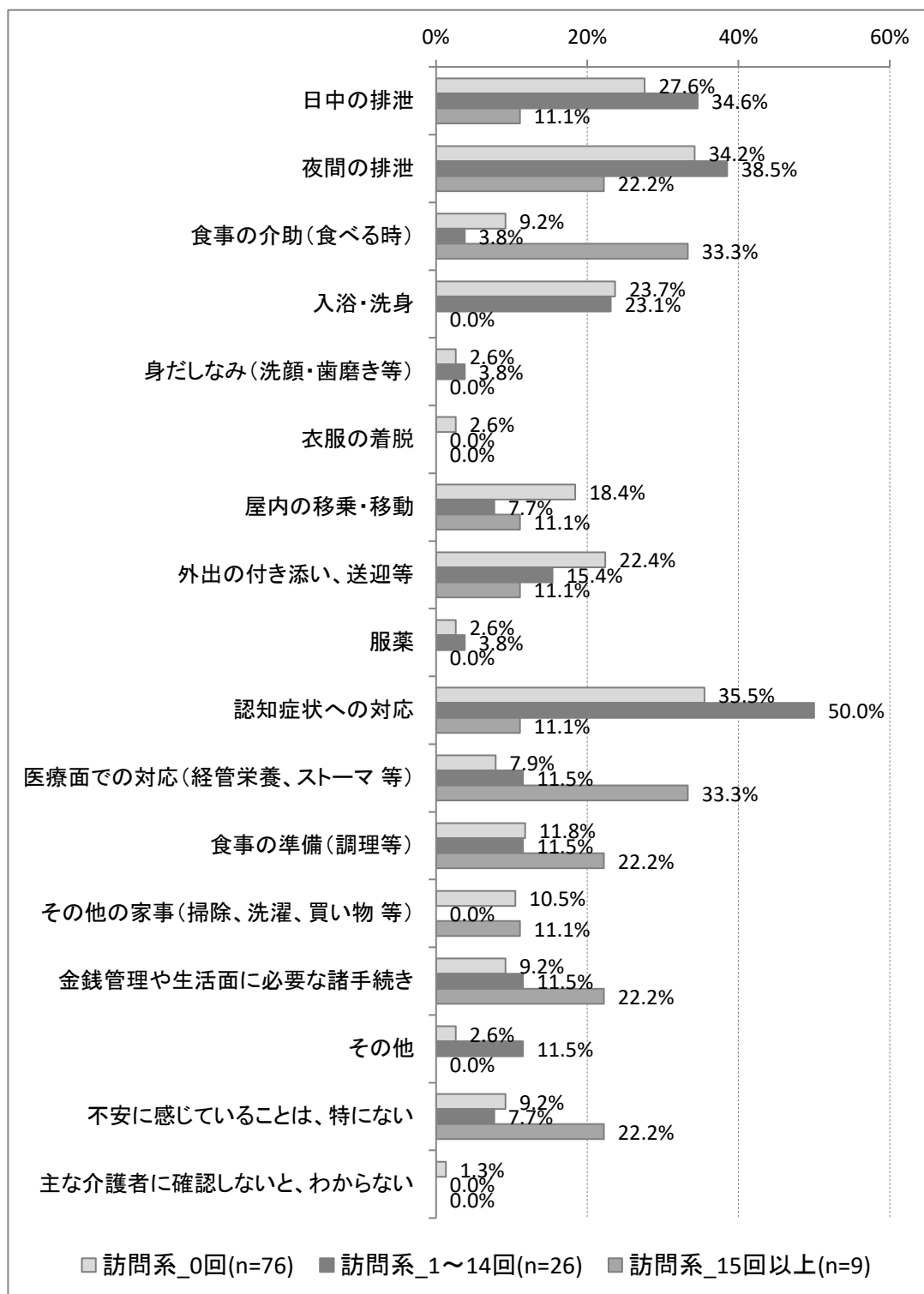
サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用者のサンプル数が少ないため参考値として見るが、「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」では、訪問系の利用回数が月「15回以上」になると、不安を感じている割合が低くなっている。

サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



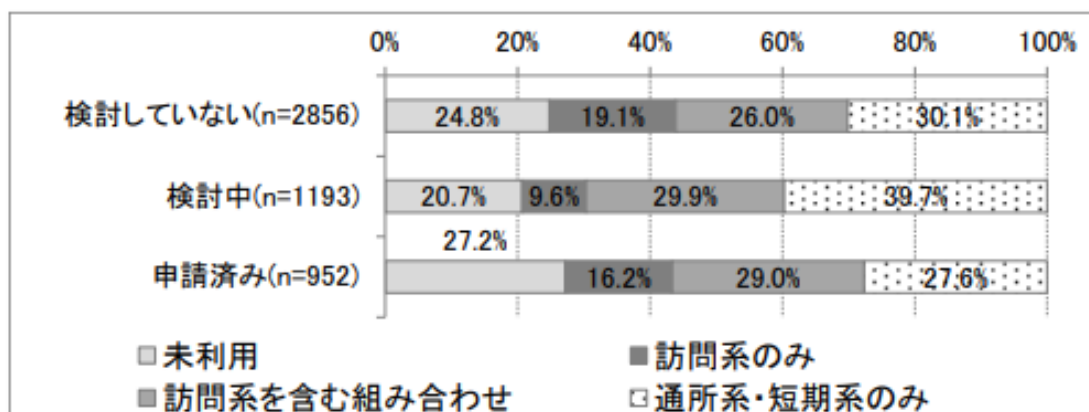
(5) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

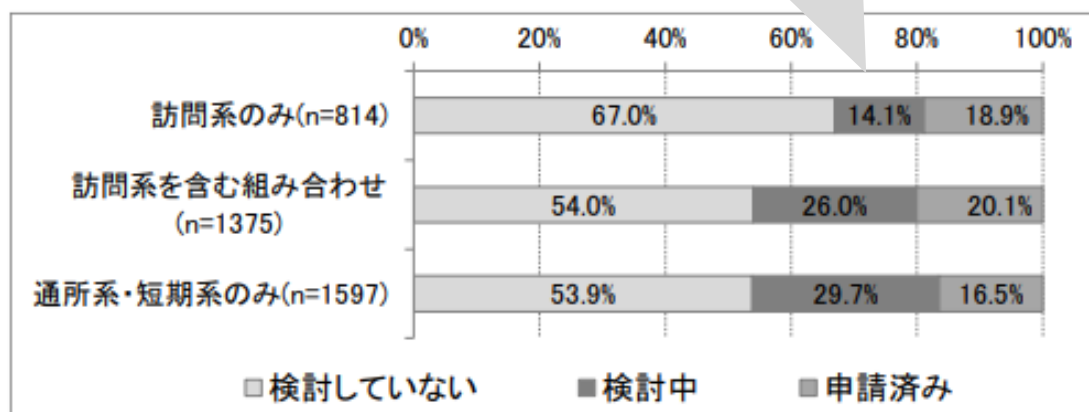
◎「訪問系」サービスを利用する方は、「施設等の検討・申請割合」が低い

- ・「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係をみると、訪問系サービスを利用する方は、施設等の「検討中」が低い傾向がみられる。
- ・特に「訪問系のみ」のケースで、施設等を「検討していない」の割合が高くなっている。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



訪問系を利用する方は、施設等を「検討中」の割合が低い

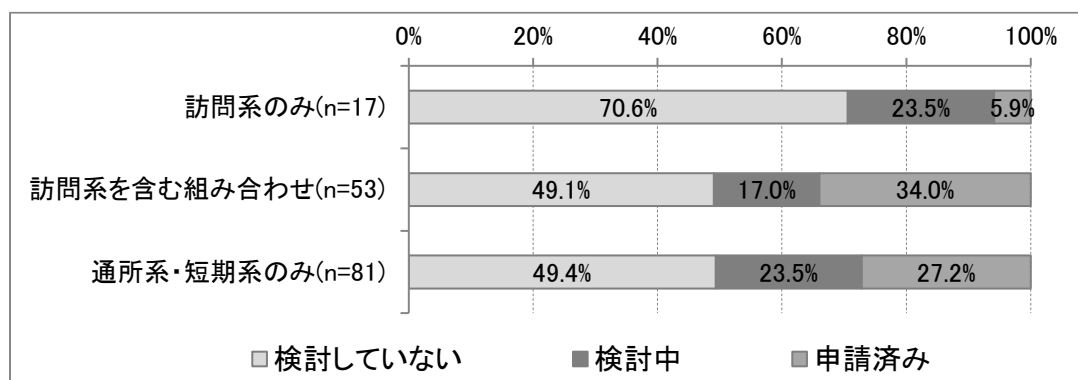
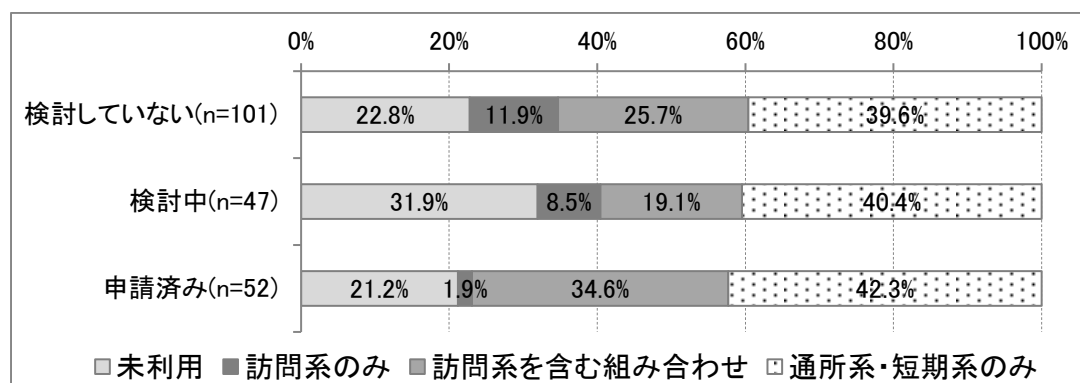


②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用者のサンプル数が少ないため参考値として見るが、要介護3以上で、「訪問系のみ」でサービスを利用している場合、「検討していない」に比べて「申請済み」の割合が低く、1.9%となっている。

また、「訪問系のみ」では、全国と同様に施設入所を「検討していない」割合が70.6%で最も高くなっている。「申請済み」は5.9%、「検討中」が23.5%であり、「訪問系を含む組み合わせ」や「通所系・短期系のみ」と比べて施設入所意向が低い。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



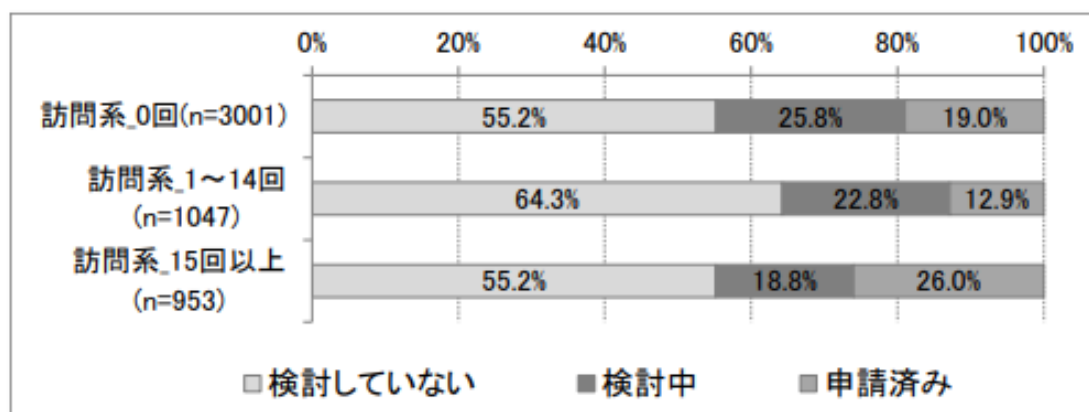
(6) 訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎施設等を「申請済み」の方は、「訪問系15回以上」が多い

・「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係をみると、施設等を「検討していない」方は、「訪問系1～14回」が多くなっている。また、「申請済み」の方は、「訪問系15回以上」が多い。

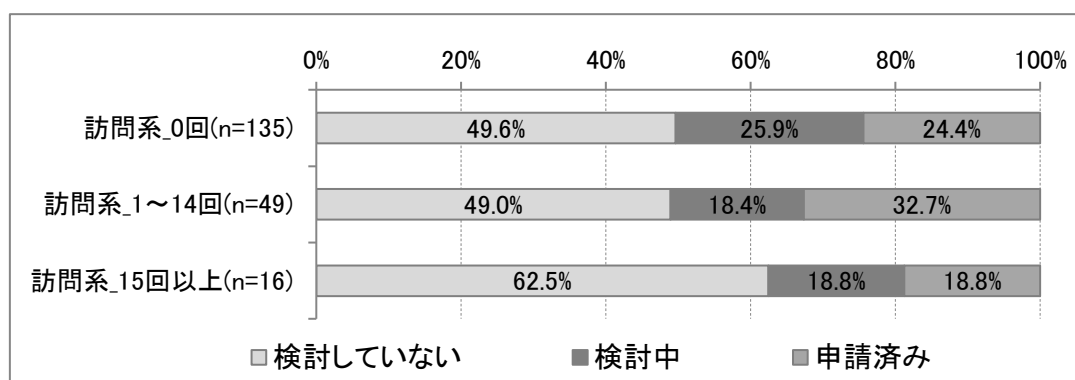
訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）



②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用のサンプル数が少ないため参考値として見るが、「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係をみると、「訪問系15回以上」では施設等に「申請済み」の方が18.8%で、15回未満の訪問回数と比べて割合が低い。また、「検討していない」の割合は「訪問系15回以上」が6割を超えており最も高い。

訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）



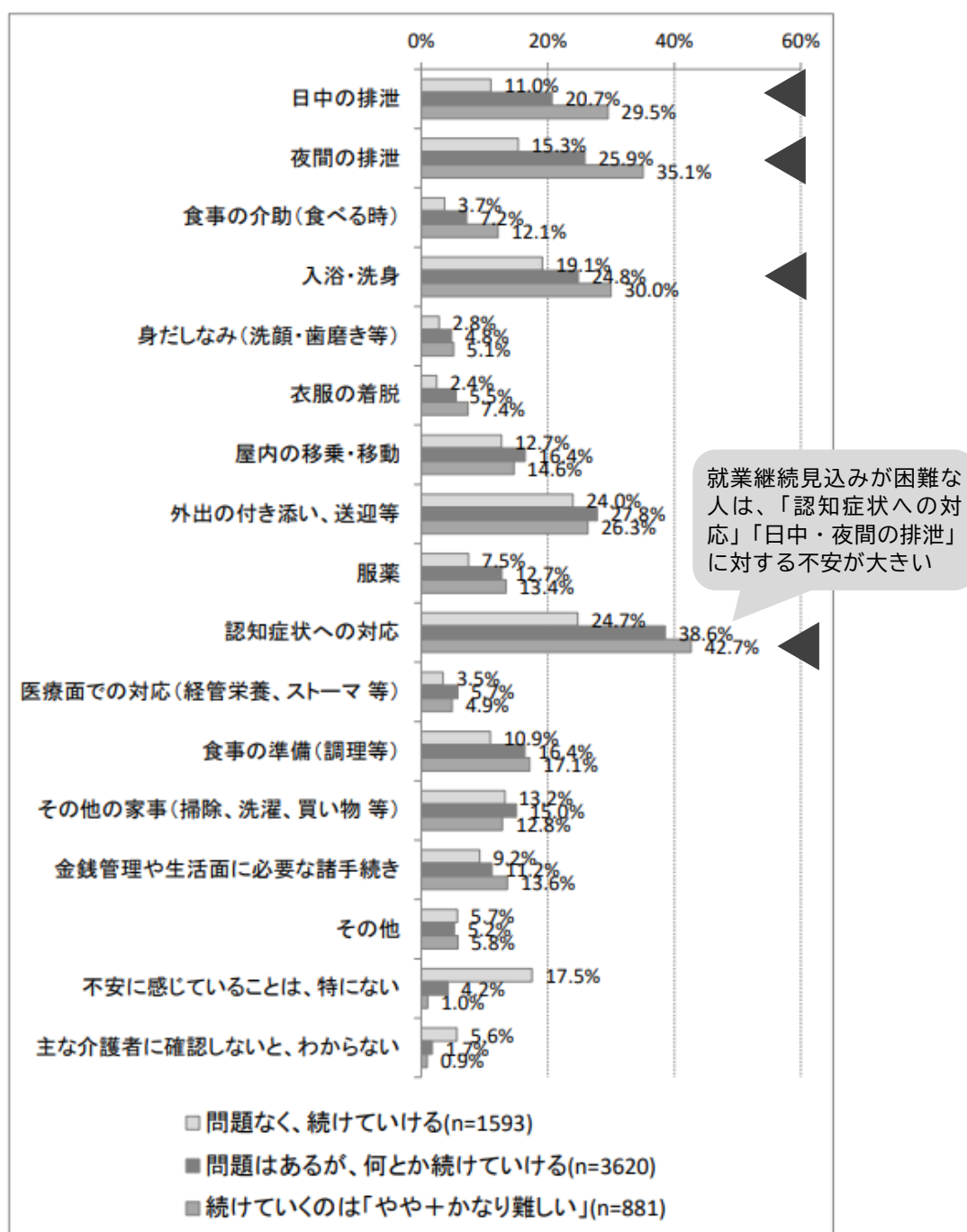
(7)介護者が不安に感じる介護（就労継続見込み別）

①全国（R5在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】）より）

◎就業継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」「日中・夜間の排泄」「入浴・洗身」が高い傾向

- ・「就労の継続の意向」と、「今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護」の関係をみると、就労継続が難しいと感じるにしたがって、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」「日中の排泄」「入浴・洗身」について、不安に感じる割合が高くなる傾向がみられた。
- ・これらの介護が「在宅生活を継続しながらの就労継続」について、介護者が可否を判断するポイントとなっている可能性がある。

就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

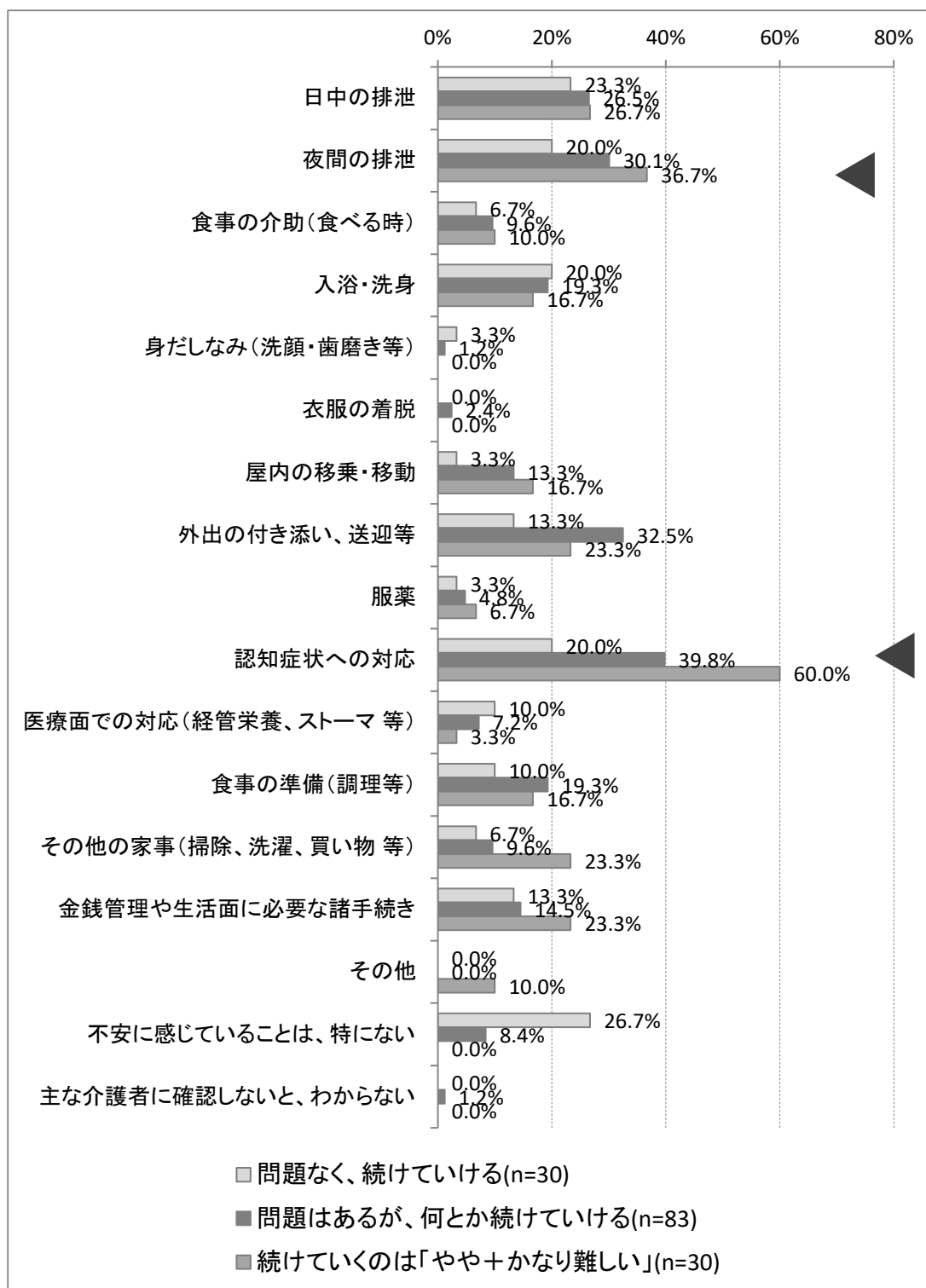


②市の調査結果では……

市では、就労継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」が高く、特に「認知症状への対応」は、要介護3以上で顕著である。

また、要介護1・2では、「認知症状への対応」のほか、「外出の付き添い、送迎等」も高い。

就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



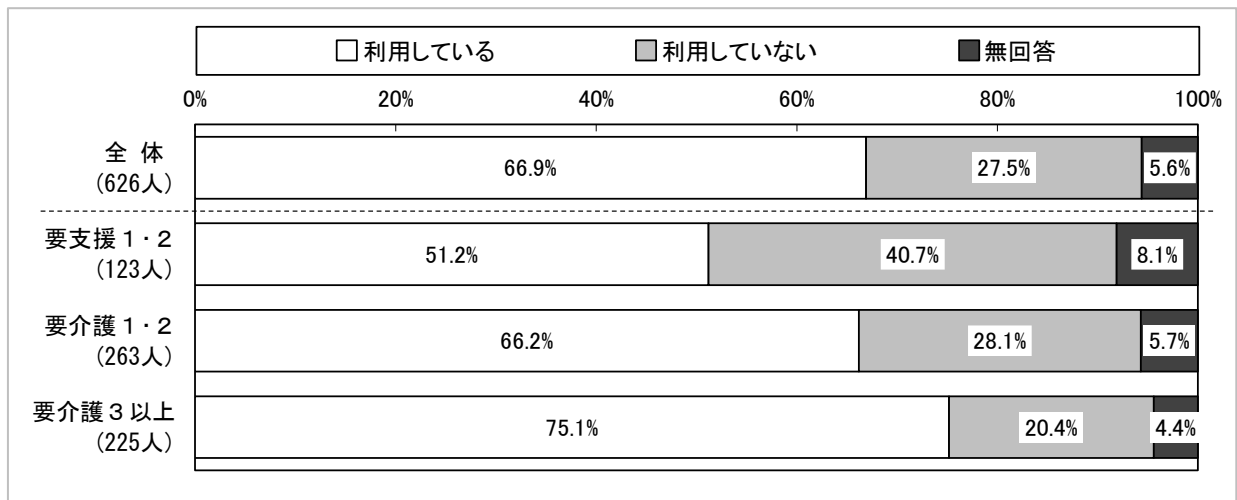
(8)介護保険サービスの利用

①-1 介護保険サービスの利用状況（市の調査結果）

介護保険サービスを「利用している」は66.9%（前回72.1%）と6割半ばとなっている。

要介護度別にみると、要介護3以上では75.1%（前回71.3%）を占めている。（ここでは、住宅改修、福祉用具の利用以外での介護保険サービスについて利用有無を聞いている）

要介護度別・介護保険サービスの利用状況

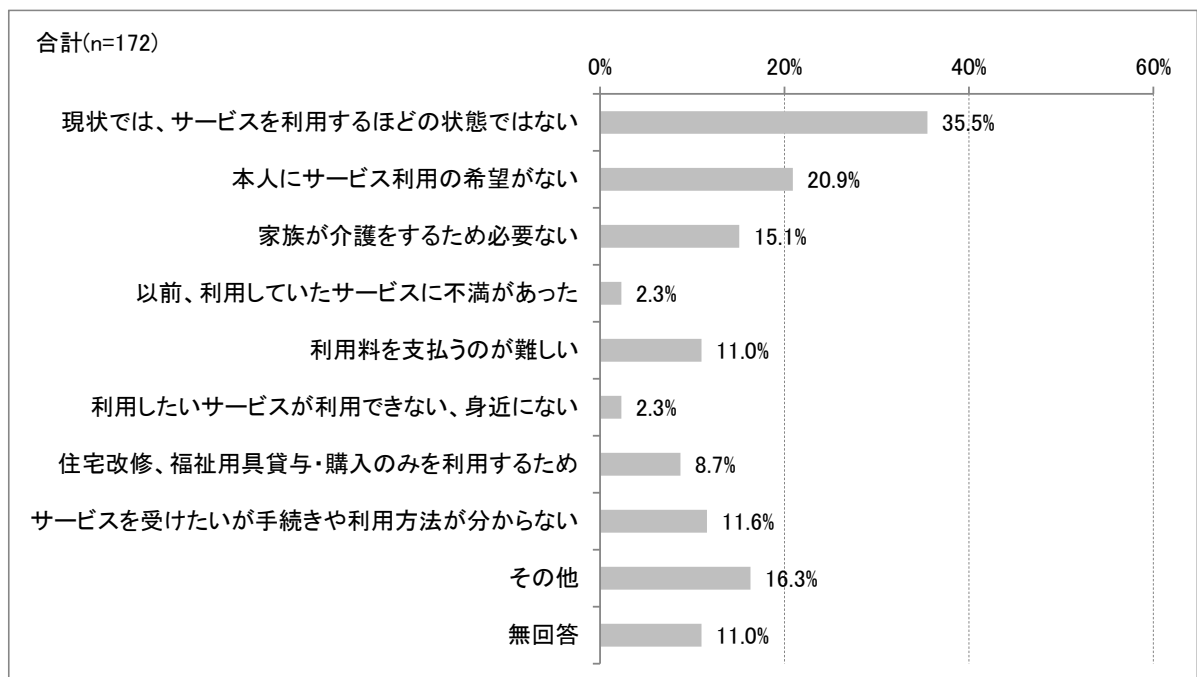


※P17「⑮サービス利用の組み合わせ」では、認定ソフト（厚生労働省提供）のデータを用いてグラフを作成していますが、ここでは「アンケート調査」から集計した結果を用いて作成しています。

①-2 介護保険サービスを利用していない理由（市の調査結果）

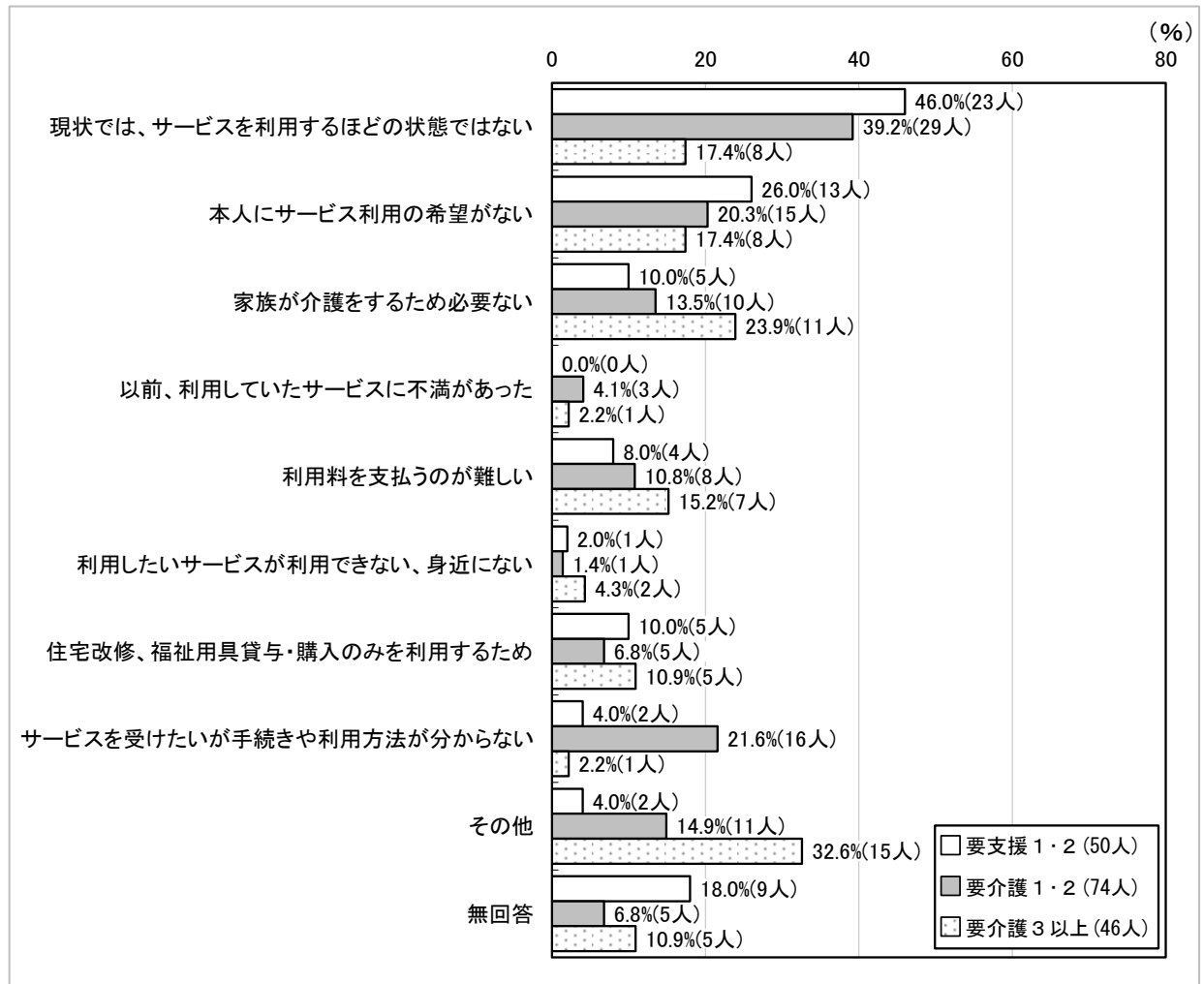
サービスを利用していない理由では「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が35.5%（前回41.2%）で最も高い。これに「本人にサービス利用の希望がない」（20.9%／前回12.3%）、「家族が介護をするため必要ない」（15.1%／前回16.0%）が続いている。

介護保険サービスを利用していない理由



要介護度別にみると、要支援１・２、要介護１・２ともに「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が特に高いほか、「本人にサービス利用の希望がない」も高くなっている。要介護３以上では、「家族が介護をするため必要がない」が最も高くなっている。

要介護度別・介護保険サービスを利用していない理由



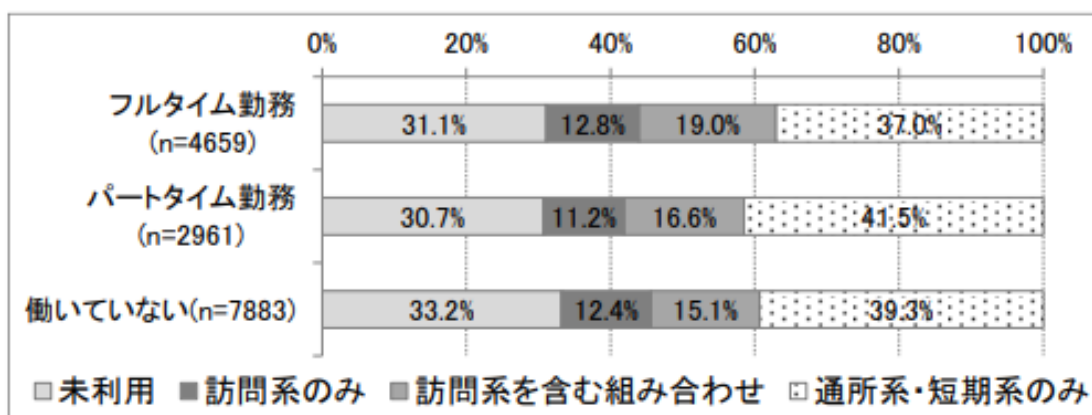
(9) サービス利用の組み合わせ（介護者の就労状況別）

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎「通所系・短期入所系のみ」の利用が40%前後を占めるが、フルタイム勤務・パートタイム勤務では「訪問系を含む組み合わせ」が働いていない方より高い。

・全国では、利用している介護保険サービスの組み合わせをみると、「通所系・短期入所系のみ」が40%前後を占めている。また、フルタイム勤務で19.0%、パートタイム勤務で16.6%が訪問系を組み合わせたサービス利用をしている。

介護者の就労状況別・サービス利用の組み合わせ

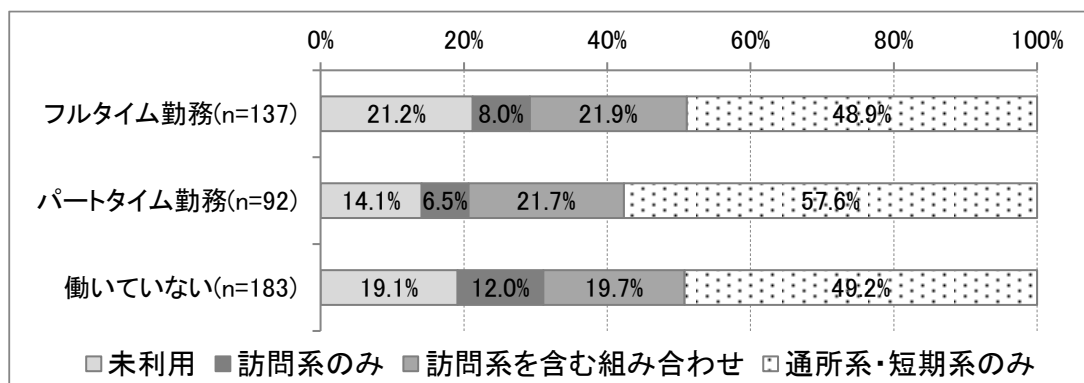


②市の調査結果では……

市では、全国と同様に「通所系・短期系のみ」が最も高く、全国値を上回っている。

また、「フルタイム勤務」では21.9%、「パートタイム勤務」では21.7%が「訪問系を含む組み合わせ」によるサービス利用をしている。

就労状況別・サービス利用の組み合わせ

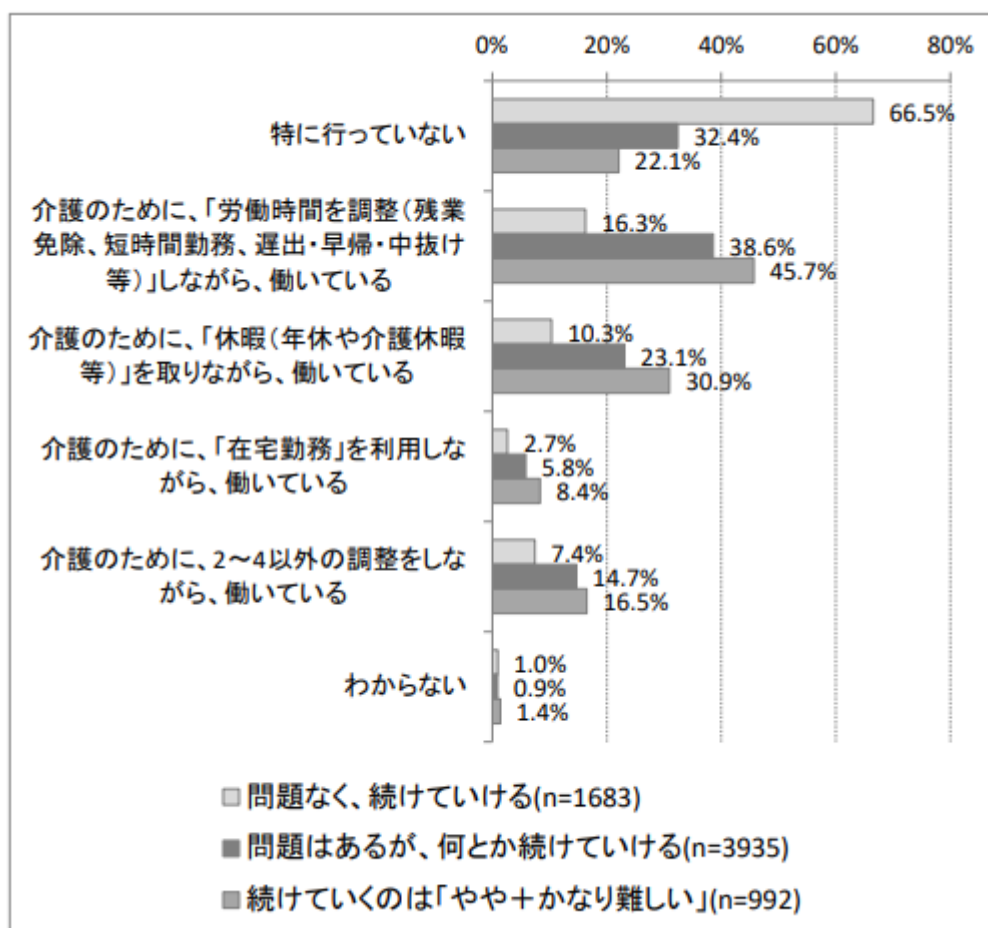


(10)介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）

①全国（R 5 在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10 万人以上 30 万人未満】）より）

- ・全国では、就業継続可能と考える介護者は、職場において働き方の調整を「特に行っていない」の割合が高い。また、就労継続が難しいと考える介護者では、特に「労働時間の調整」をしながら働いている割合が高い。

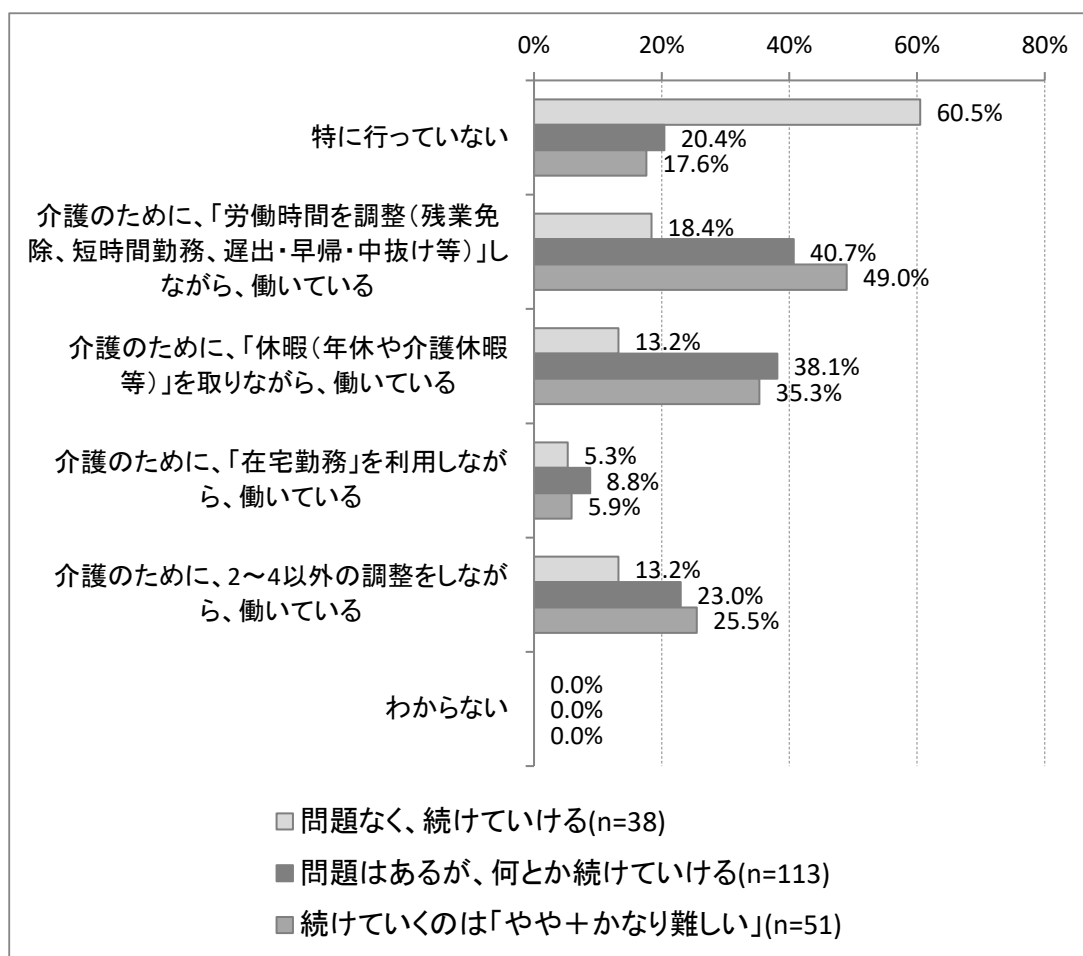
就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



②市の調査結果では……

市では、全国と同様に、就業継続可能と考える介護者は、働き方の調整を「特に行っていない」という回答で非常に高くなっている。問題はあるがなんとか続けている人や続けていくのは難しいという人では、「労働時間の調整」や「介護休暇や年休」を取りながら働いている割合が高い。しかし、職場と調整しながら働いているにもかかわらず、就労継続が難しいと考える介護者も多く、家族介護者に対する職場の理解のほか、在宅介護を継続するために必要と感ずることを把握する必要がある。

就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



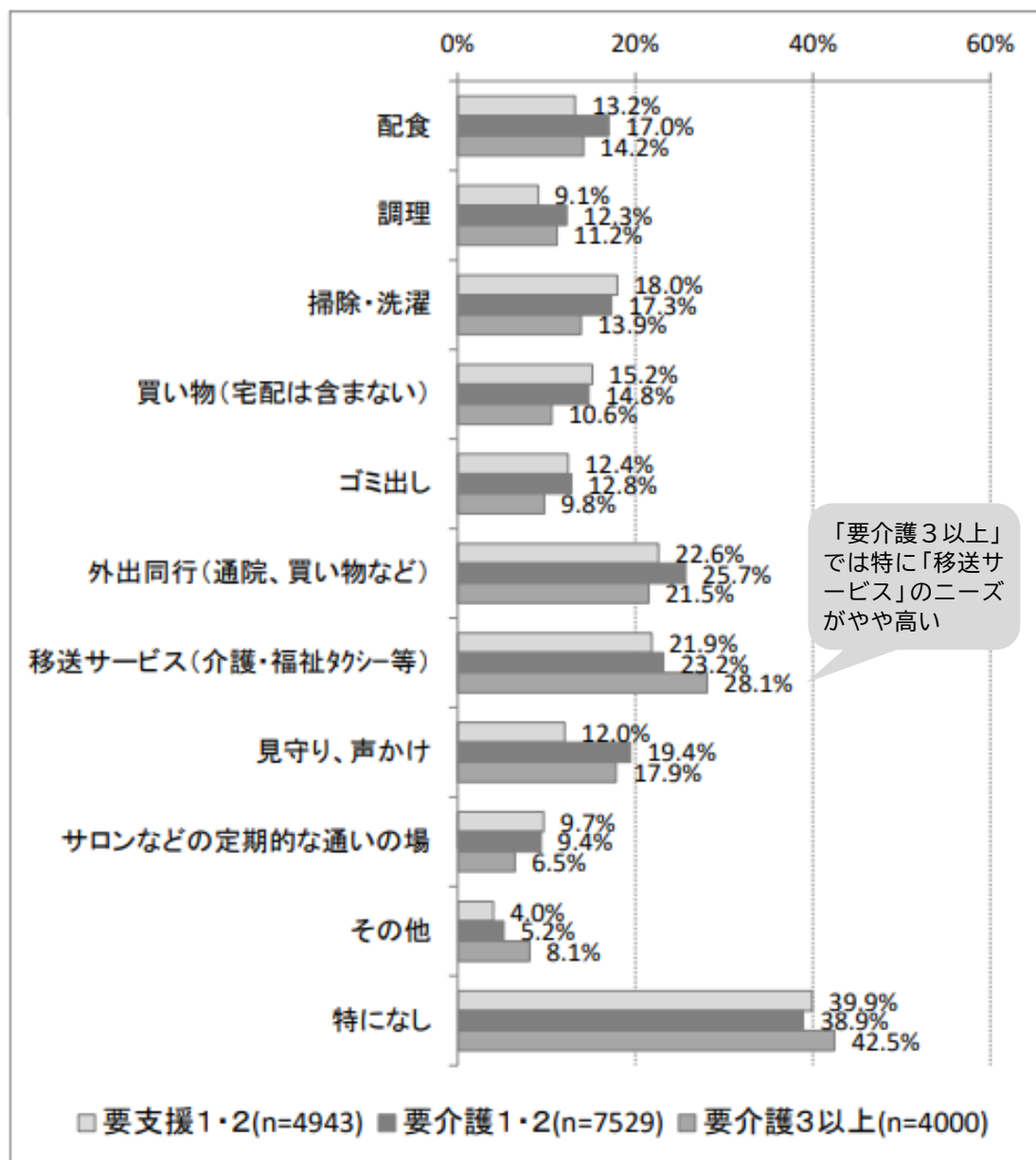
(11)在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」は、要介護３以上では「移送サービス」がやや高い。

・要介護度別の「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」をみると、「要介護３以上」においては、「移送サービス」のニーズがやや高い傾向がみられる。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



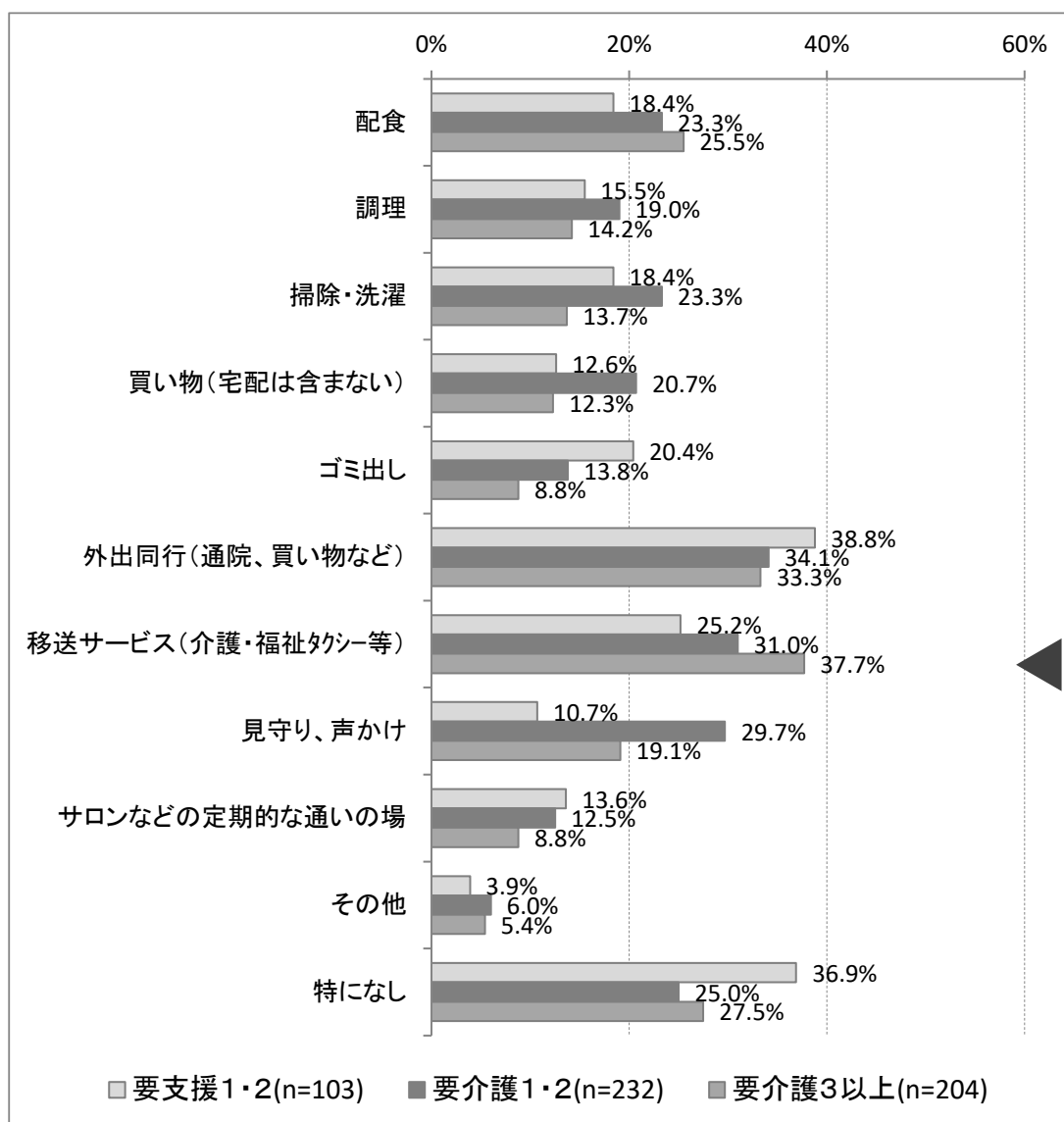
②-1 市の調査結果では……

市でも全国と同様に、「要介護3以上」では「移送サービス」が高くなっているが、「外出同行（通院、買い物など）」の割合も高い。また、要介護1・2でも「外出同行」と移送サービス」が高いほか、「見守り・声かけ」もこれらに次いで高くなっている。

「要支援1・2」では、「外出同行（通院、買い物など）」が最も高いほか、「移送サービス」、「ゴミ出し」が比較的高い。

介護保険サービスと、保険外の支援やサービスを組み合わせながら、介護度など個々の状況に応じた適切なサービスを提供できる体制づくりが必要である。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

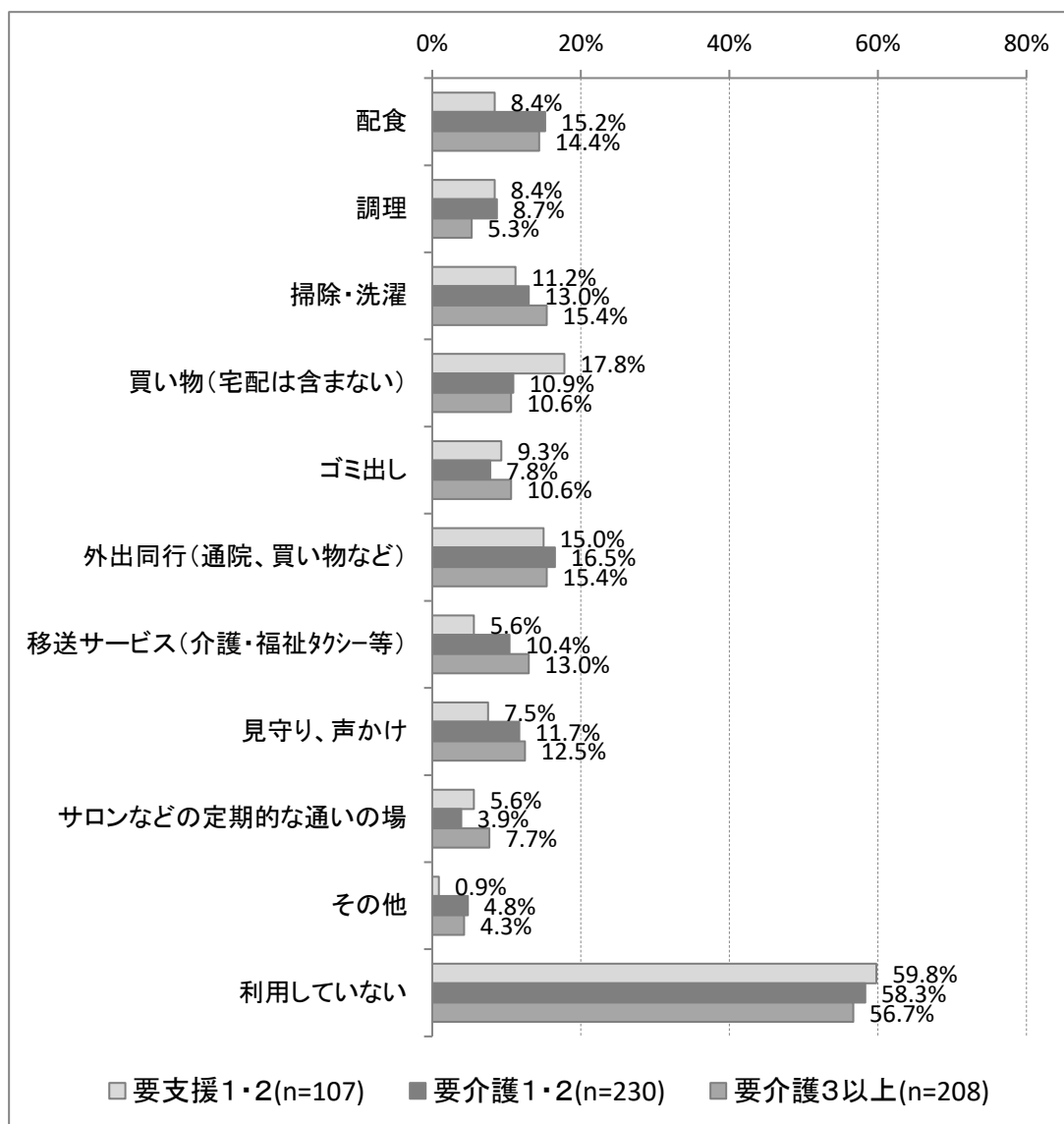


②-2 現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス（市の調査結果）

現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、要介護3以上は「外出同行」、「掃除・洗濯」、「配食」、「移送サービス」が僅かではあるが比較的高い。

また、「要介護1・2」では、「外出同行」や「配食」が僅かではあるが比較的高い。「要支援1・2」では、「買い物」、「外出同行」が僅かではあるが比較的高い。

現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス



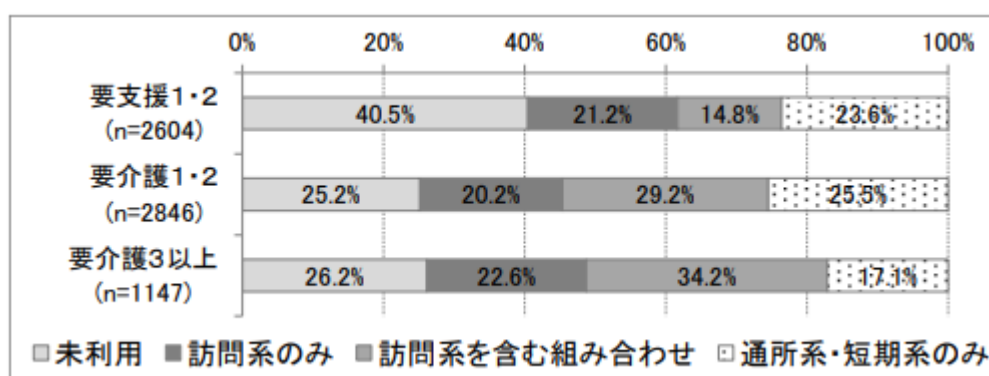
(12) サービス利用の組み合わせ（要介護度別・世帯類型別）

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

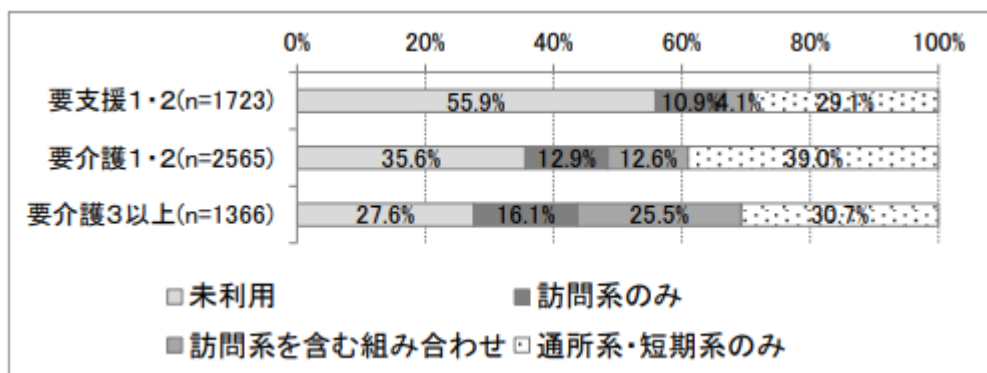
◎要介護度の重度化に伴い、いずれの世帯類型においても「訪問系を含む組み合わせ」が増加

- ・世帯類型別・要介護度別のサービス利用をみると、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加する傾向がみられた。
- ・このように、現在、在宅で生活している要介護者は、要介護度の重度化に伴い「訪問系サービスを含む組み合わせ」の利用をしていくことで、在宅生活の継続を可能にしていると考えられ、また、いずれの世帯類型についても概ね同様の傾向がみられる。

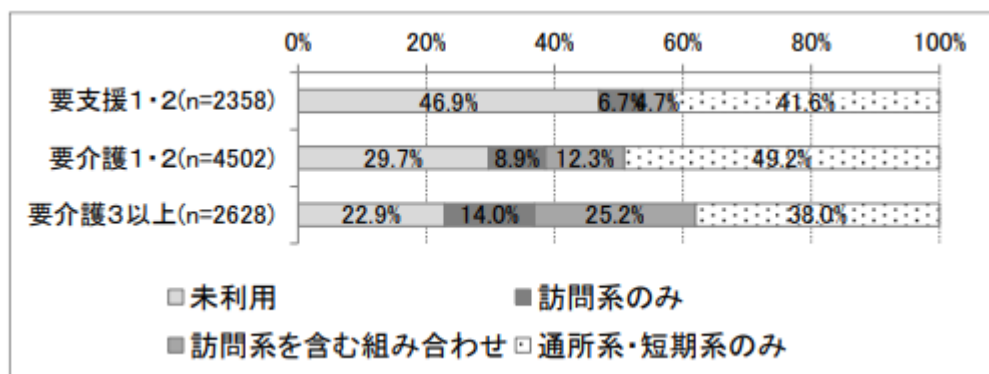
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



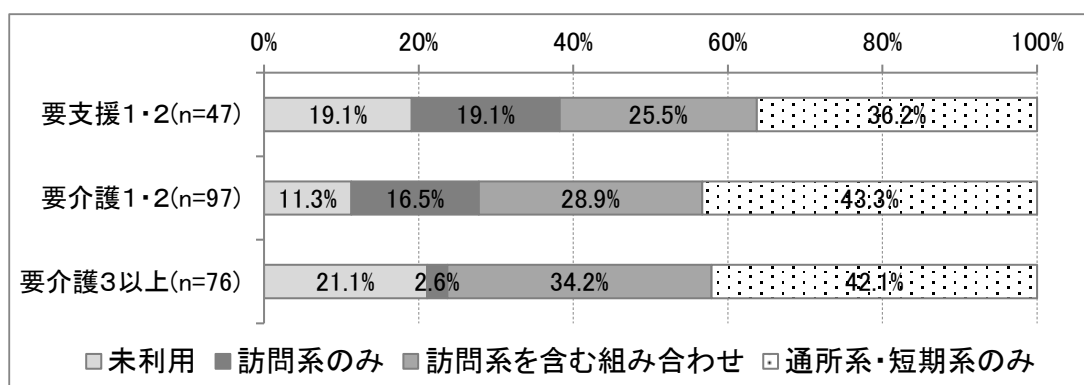
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



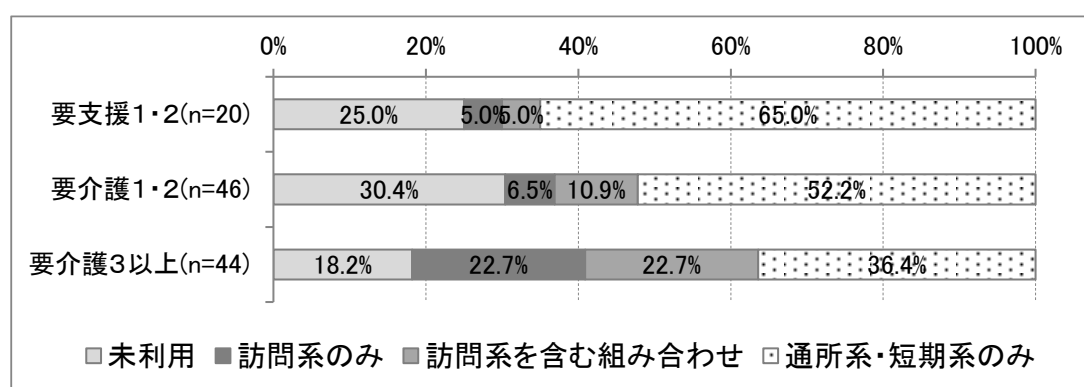
②市の調査結果では……

市では、訪問系サービスの利用が非常に少ないが、利用者の状況を世帯類型別・要介護度別にみると、全国と同様に、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加する傾向となっている。

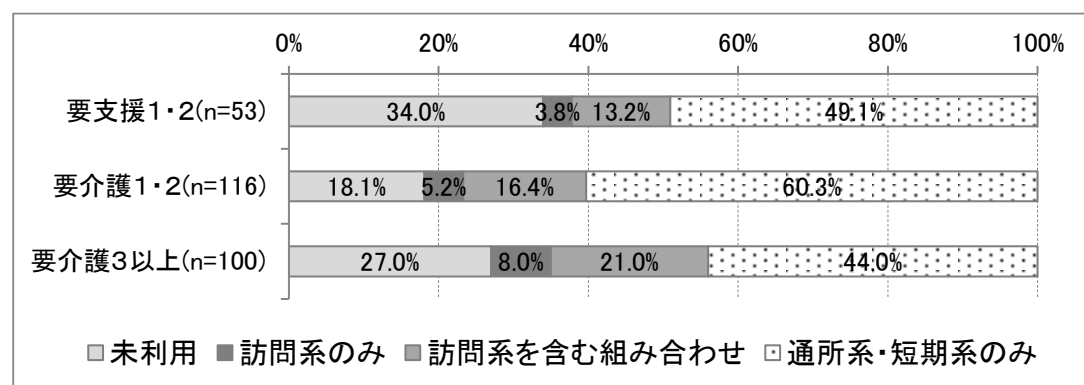
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



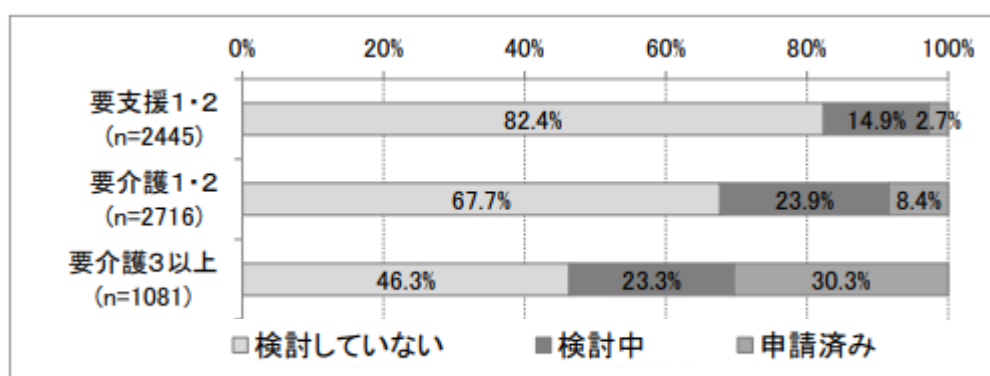
(13)施設等検討の状況（要介護度別・世帯類型別）

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

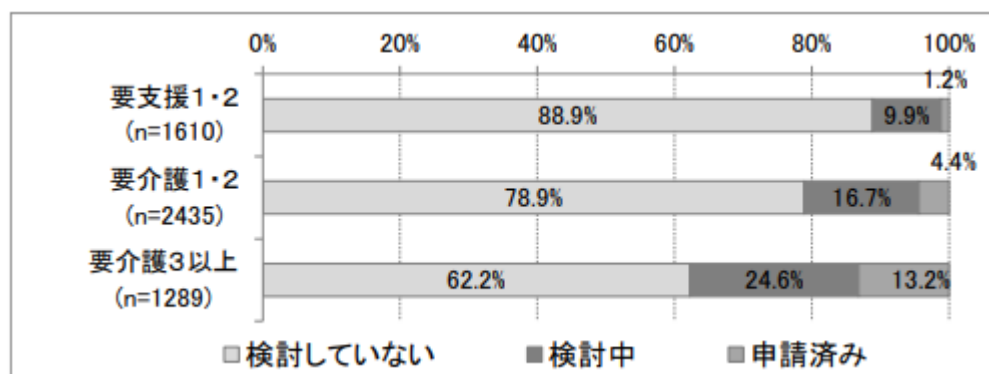
◎全国では、「夫婦のみ世帯」「その他世帯」では、要介護３以上においても「施設等を検討していない」割合が６割前後となっているが、単身世帯では５割をきっている。

・施設等の検討状況について世帯類型別にみると、要介護３以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では46.3%、「夫婦のみ世帯」は62.2%、「その他世帯」では59.4%である。反対に要介護３以上で「申請済み」は、「単身世帯」が30.3%、「夫婦のみ世帯」が13.2%、「その他世帯」が16.7%となっている。

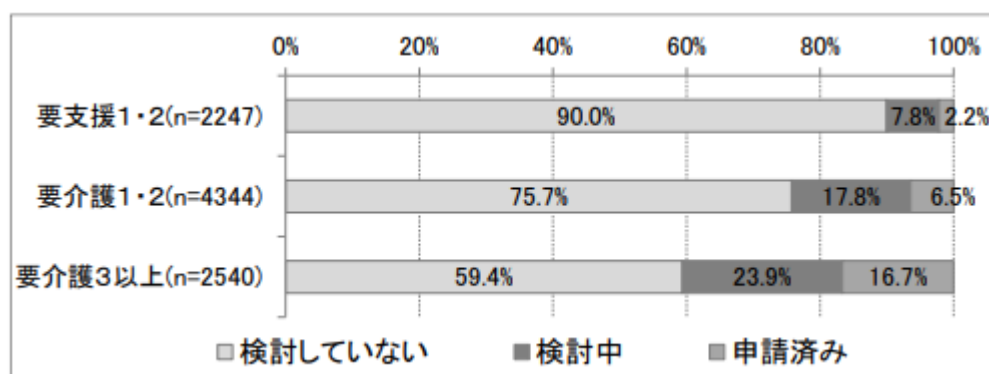
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



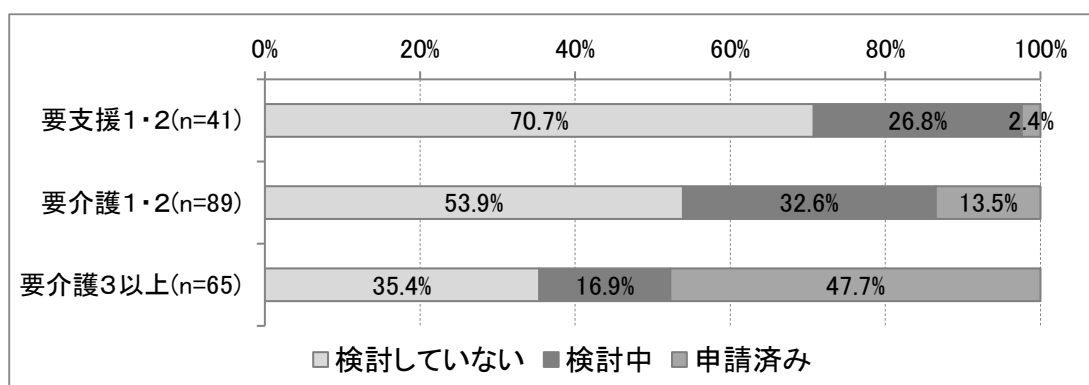
要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



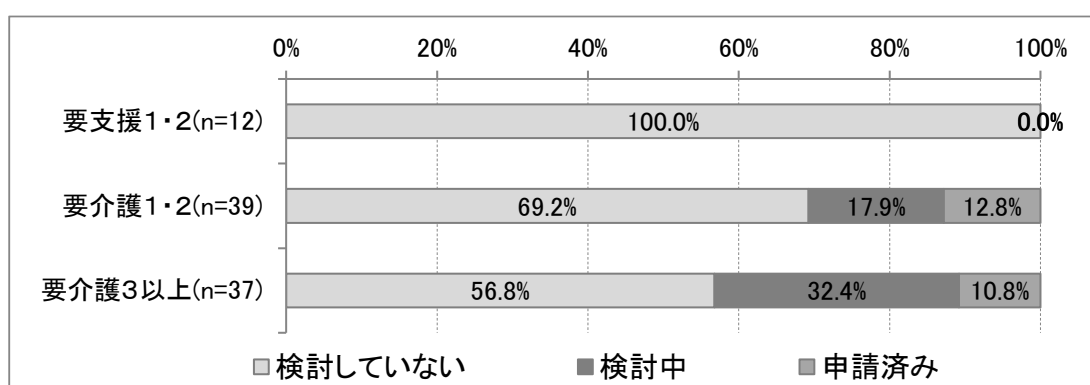
②市の調査結果では……

市では、施設等について要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では35.4%（前回49.9%）、「夫婦のみ世帯」で56.8%（前回66.1%）、「その他世帯」では57.9%（前回64.6%）であり、全国よりも低い。特に単身世帯で顕著に低い。要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が47.7%（前回15.6%）、「夫婦のみ世帯」が10.8%（前回8.3%）、「その他世帯」が17.9%（前回14.9%）であり、単身世帯での申請済みが全国を大きく上回っている。

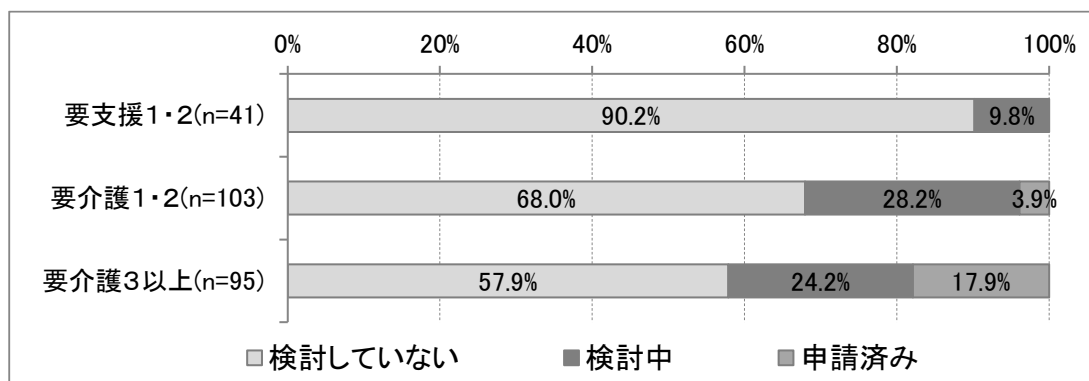
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



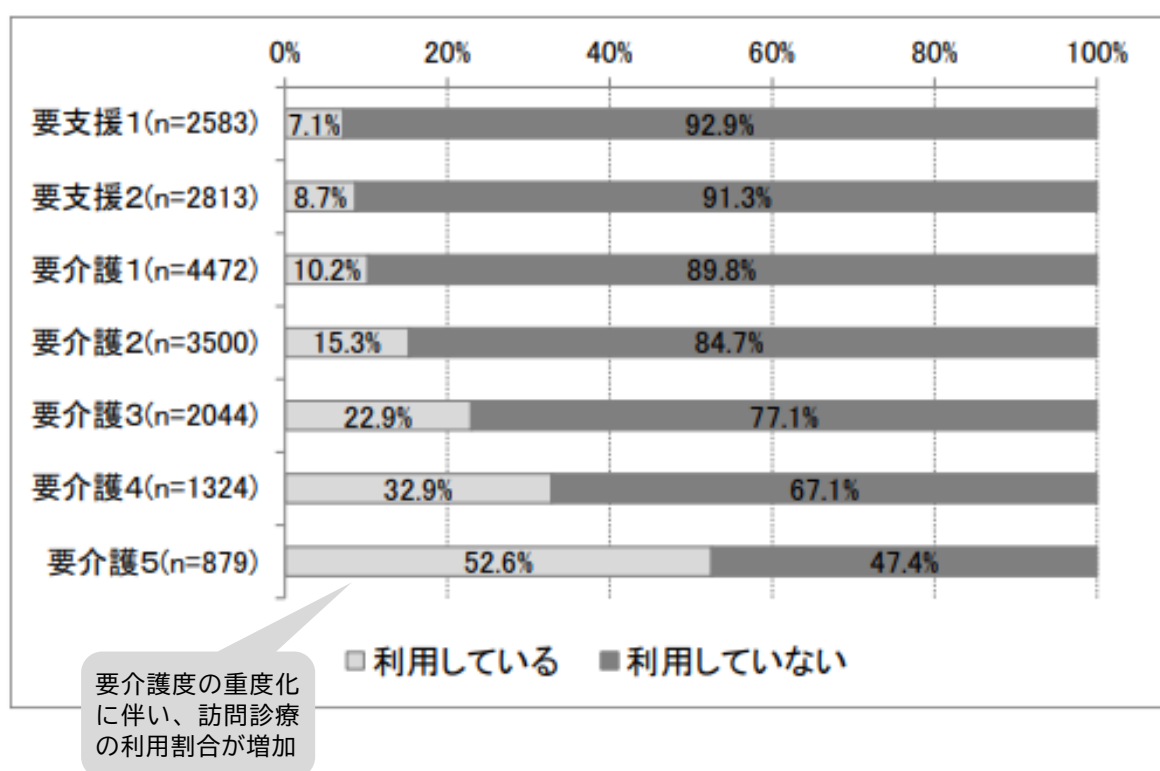
(14) 訪問診療の利用割合

①全国（Ｒ５在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎「要介護度の重度化」に伴い、「訪問診療」の利用割合が増加

- ・要介護度別の「訪問診療の利用の有無」をみると、要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加しており、要支援１では7.1%であった訪問診療の利用割合が、要介護１では10.2%、要介護３では22.9%、要介護５では52.6%に増えている。
- ・今後、高齢化の進展に比例して要介護認定者も増加する。それに伴い訪問診療の利用も増加すると思われるため、その受け皿を準備する必要がある。

要介護度別・訪問診療の利用割合

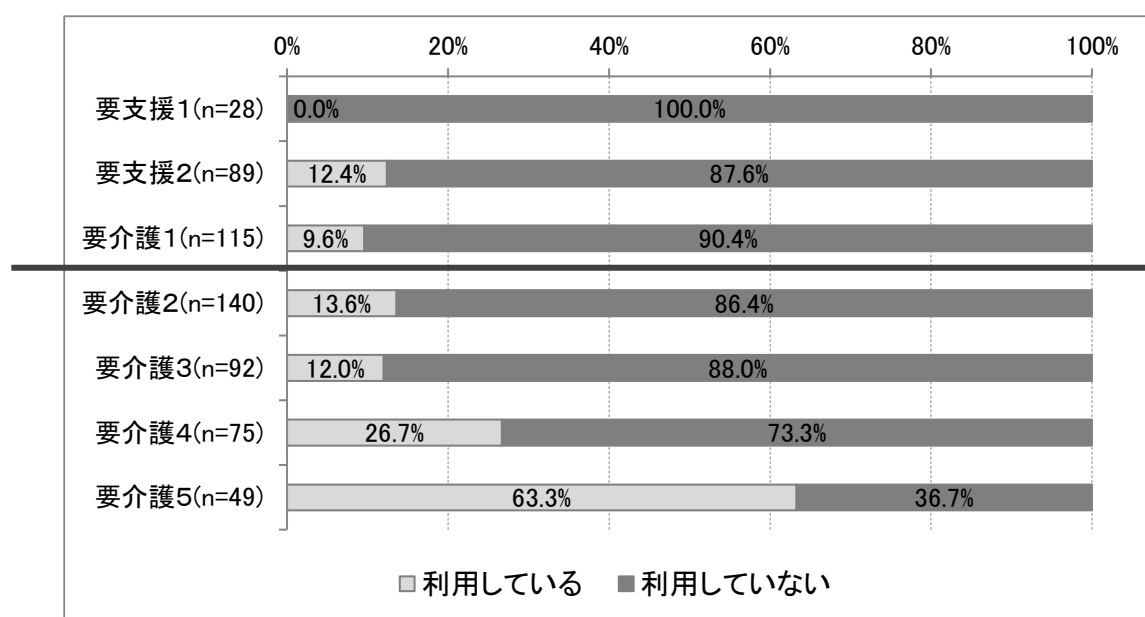


②市の調査結果では……

市では、概ね、介護度が上がると利用割合が高くなる傾向が見られるが、要支援2から要介護3までは15%未満に留まっている。要介護3は全国よりも利用率が低く、また前回調査時（19.6%）より下がっている。要介護4は26.7%（前回20.3%）で、全国より低いが前回調査時より上昇している。要介護5は63.3%（前回45.2%）で、全国値を上回っている。

在宅介護を継続する上では在宅医療の提供が必要なケースもあるため、在宅療養者に対する適切なサービス提供体制の確保が必要である。

要介護度別・訪問診療の利用割合

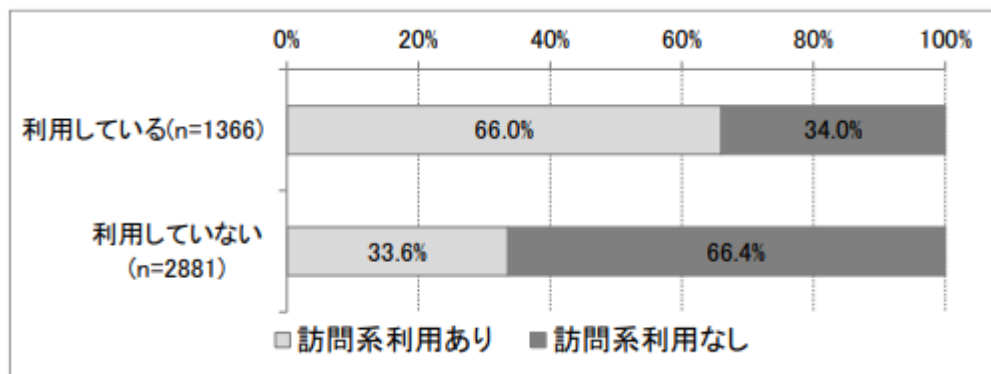


(15) 訪問診療とサービスの利用有無の関係

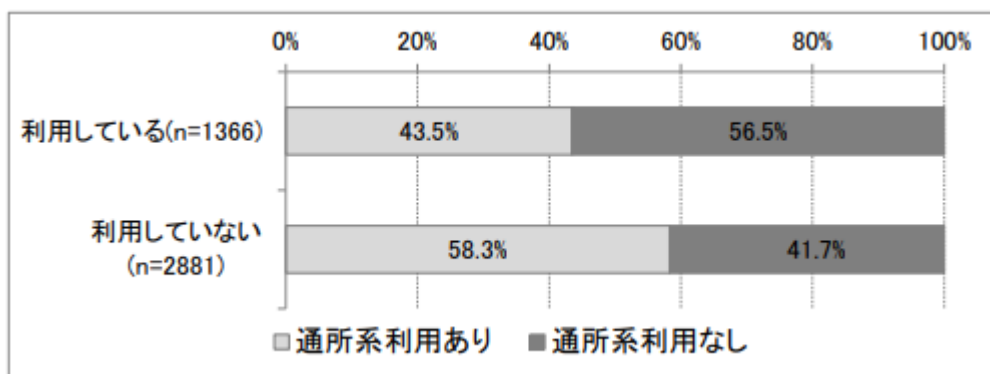
①全国（R 5 在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10 万人以上 30 万人未満】)より)

◎全国では、「訪問診療を利用している」ケースでは、短期系の利用割合が低い。

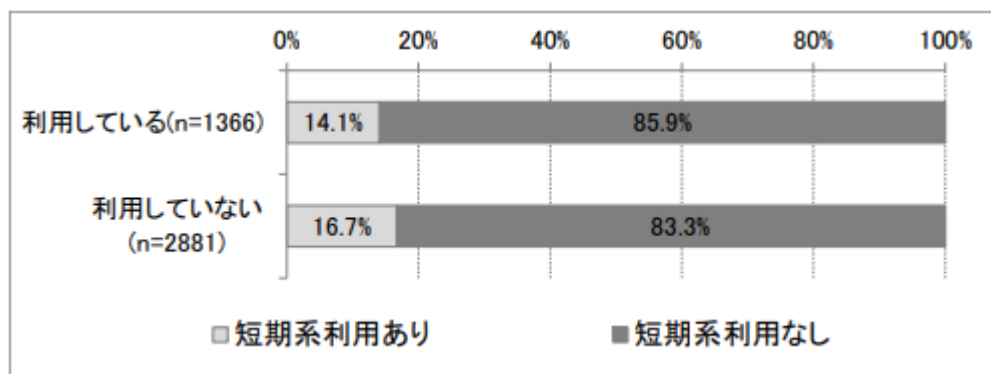
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



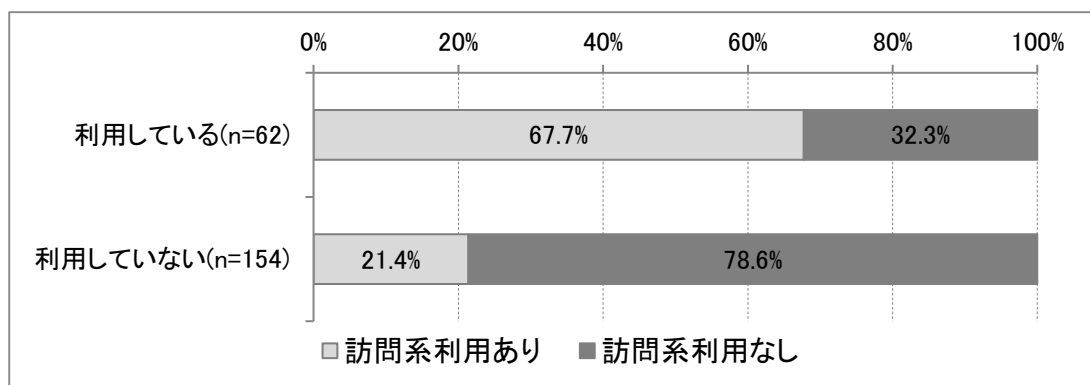
訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



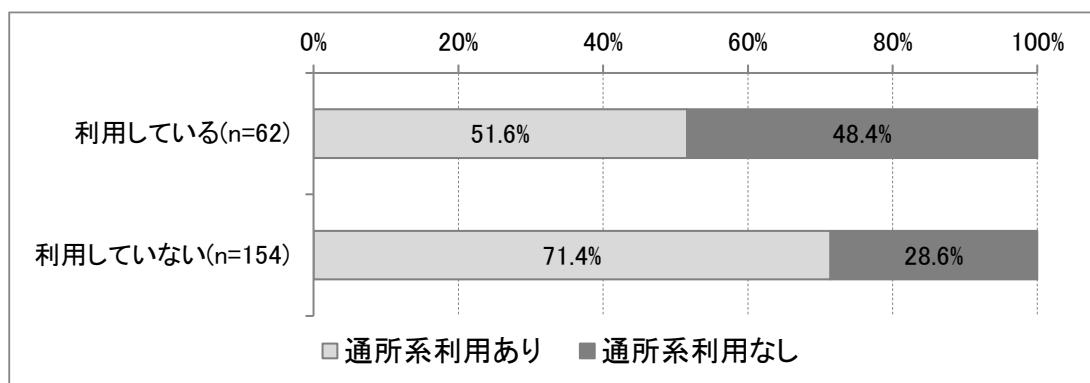
②市の調査結果では・・・

市では、通所系の要介護３以上では、訪問診療利用者の方が未利用者よりも通所系利用率が低くなっているが、訪問系と通所系では、訪問診療未利用者の方が、サービス利用率が高くなっている。

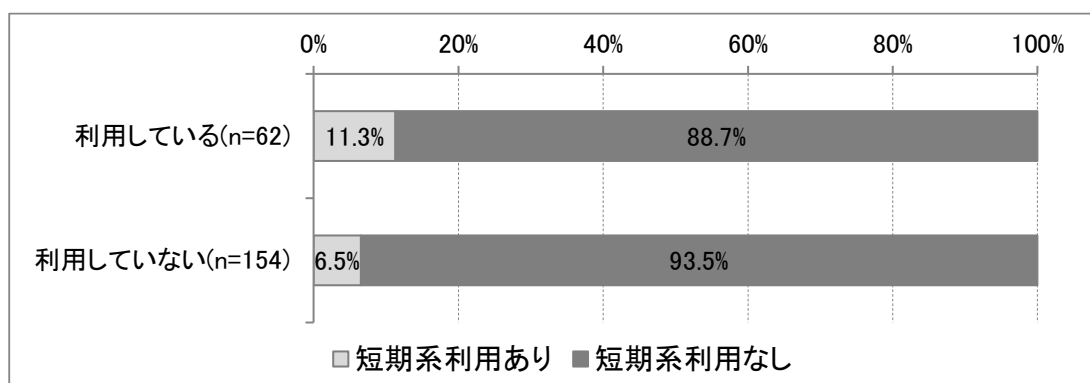
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護３以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護３以上）



訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護３以上）



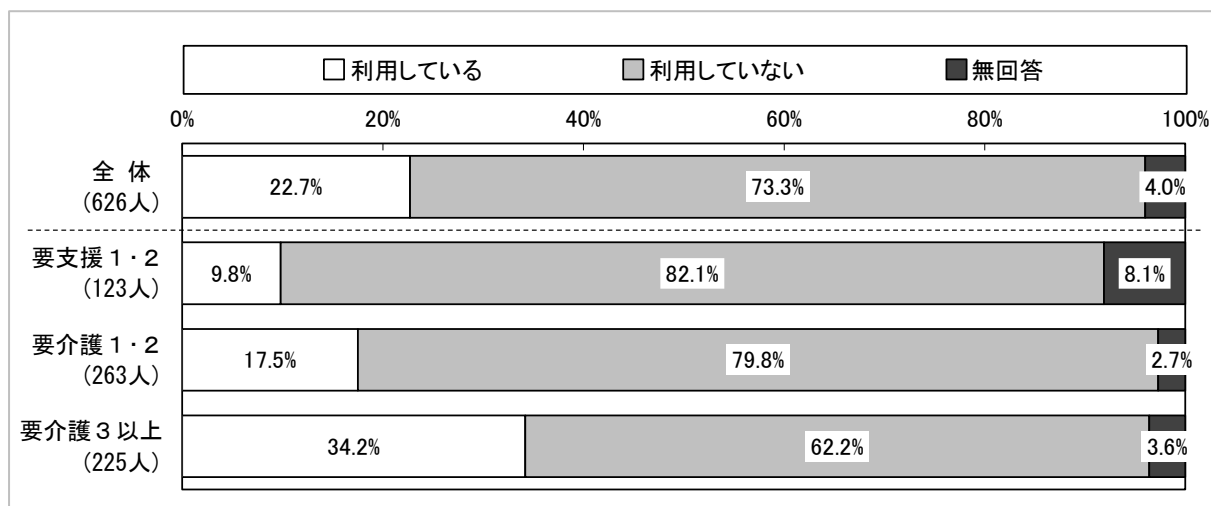
(16) 訪問看護の利用状況

訪問看護は、全体では 22.7%（前回 16.6%）の人が「利用している」と回答している。

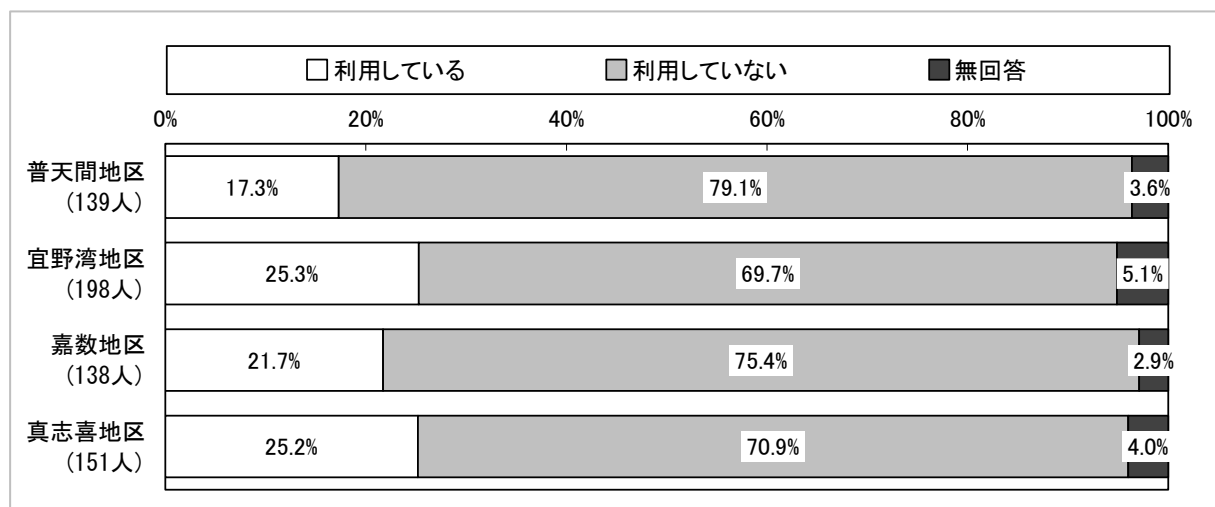
要介護度でみると、要介護度が重くなるにつれて利用している人が増加している。

地区別でみると、全体と同様の傾向がみられるが「普天間地区」では他地区より利用率が低い。

要介護度別・訪問看護の利用状況



地区別・訪問看護の利用状況



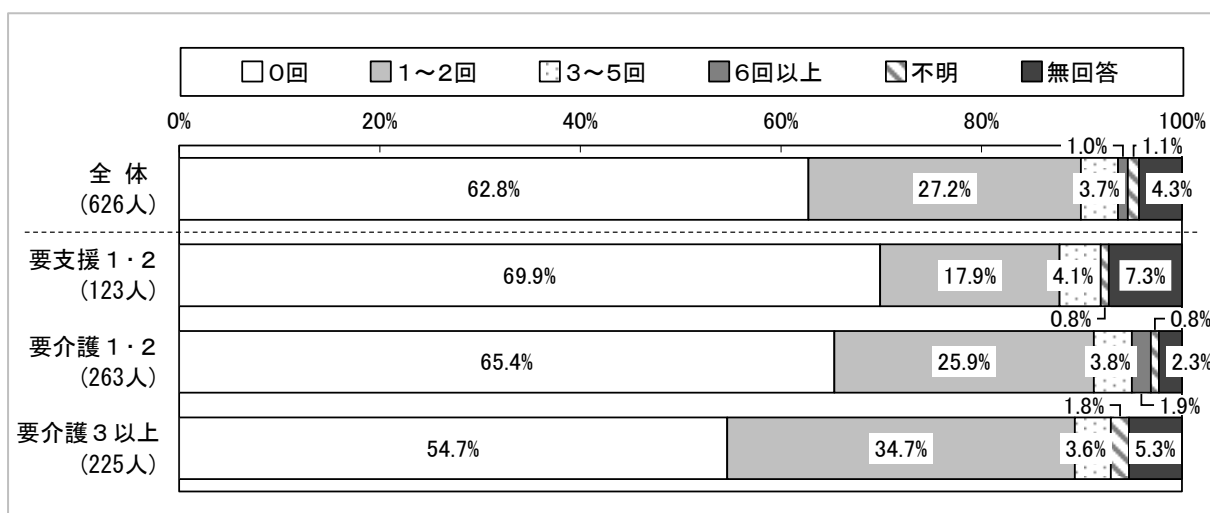
(17)救急(総合病院への定期外受診)の受診回数

最近6か月以内に、救急(総合病院への定期外受診)を受診した回数を尋ねたところ、全体では6割の人は受診していないと回答している。「1～2回」の回答が27.2%で2割半ばとなっている。

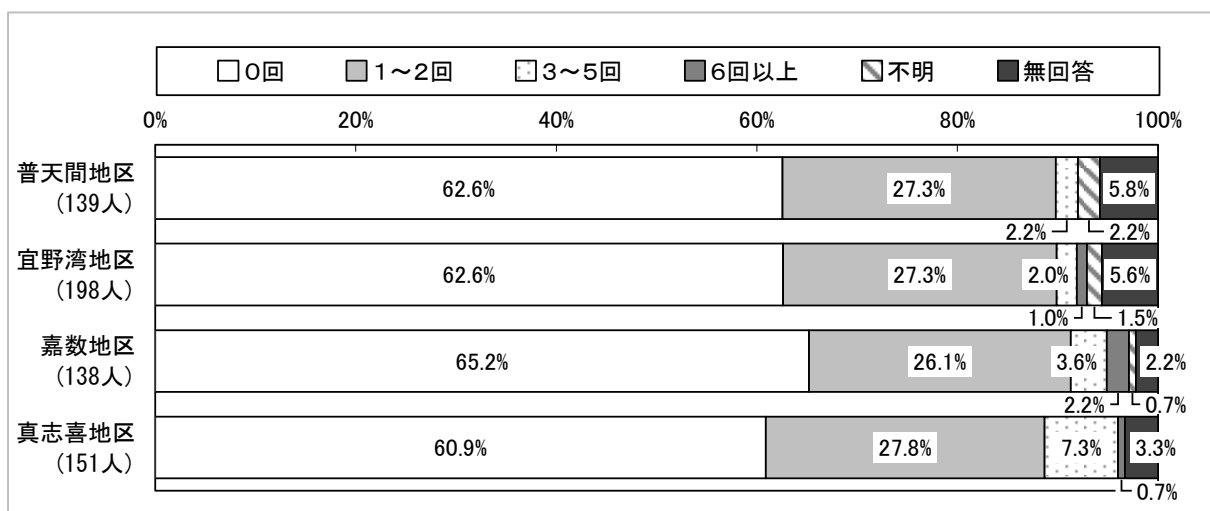
要介護度でみると、要介護度が重くなるにつれて受診したことがある人が増加しており、体力の低下とともに受診する可能性が高くなることがうかがえる。

地区別でみると、「真志喜地区」で「3～5回」の割合が7.3%あり、他地区より高い。

要介護度別・救急の受診回数



地区別・救急の受診回数

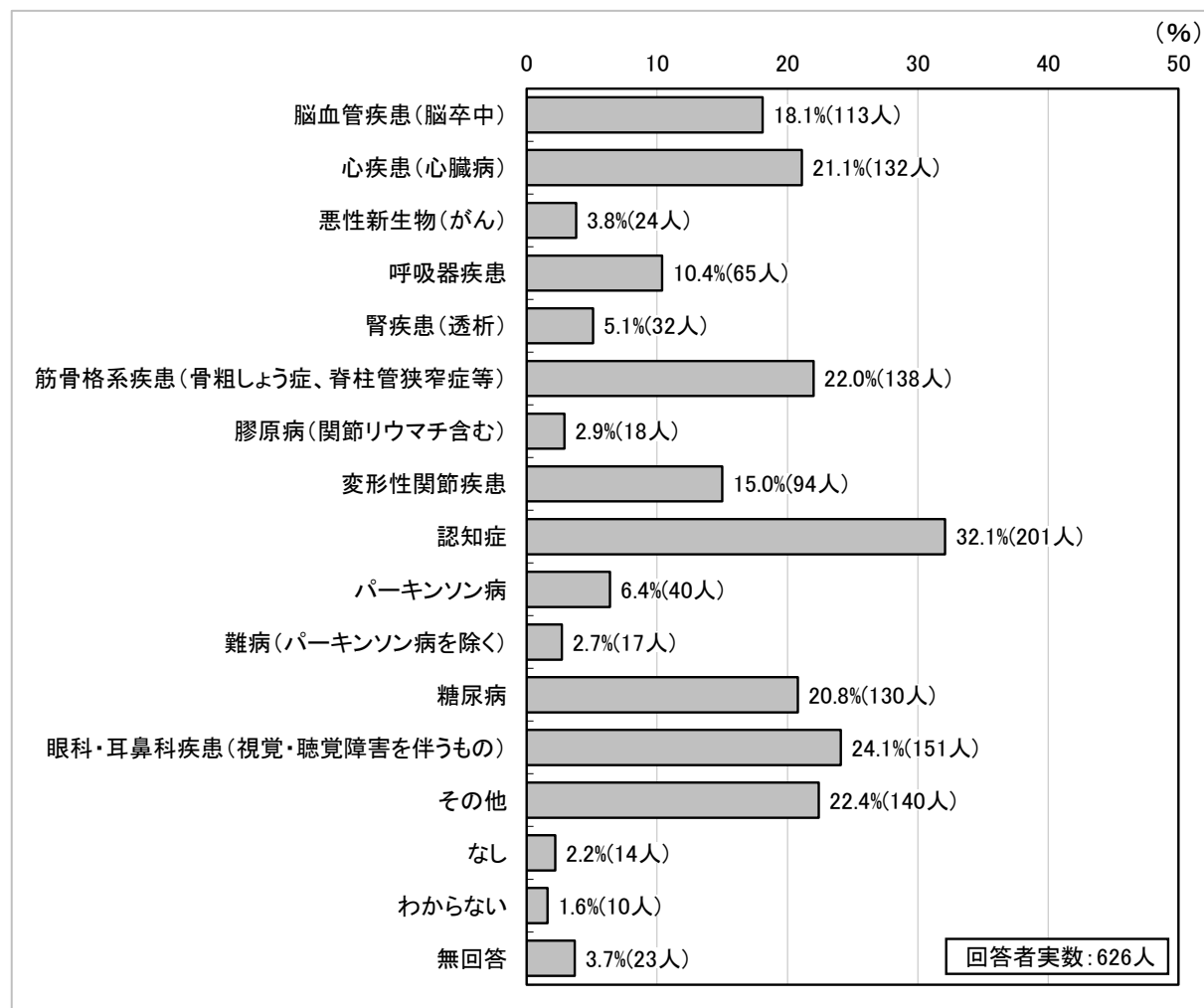


(18) その他

①現在抱えている傷病について

現在抱えている傷病については、「認知症」が32.1%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患」に24.1%、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」の22.0%、「心疾患(心臓病)」の21.1%、「糖尿病」の20.8%と続いている。

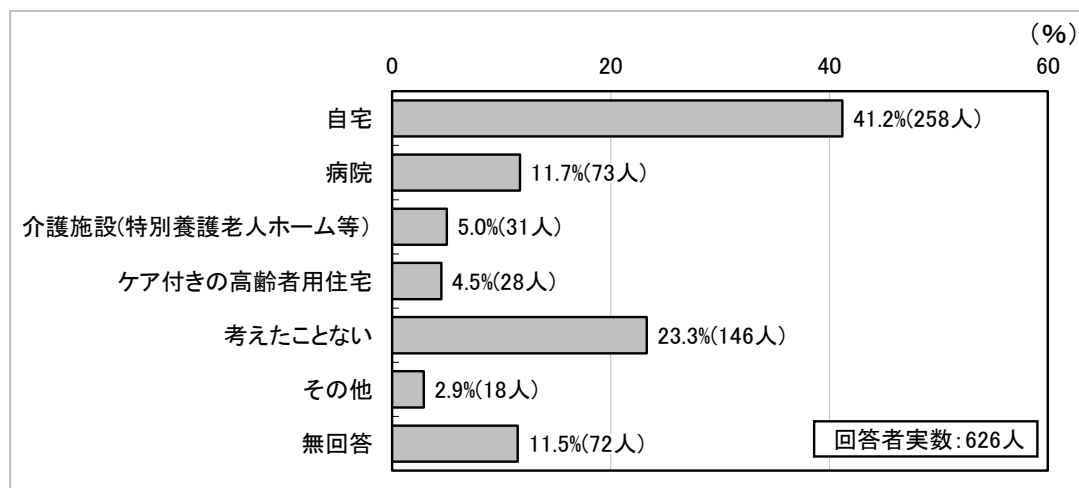
現在抱えている傷病について



②最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所は、「自宅」が41.2%で最も高く、「病院」が11.7%となっている。一方で、4人に1人が「考えたことがない」と回答している。

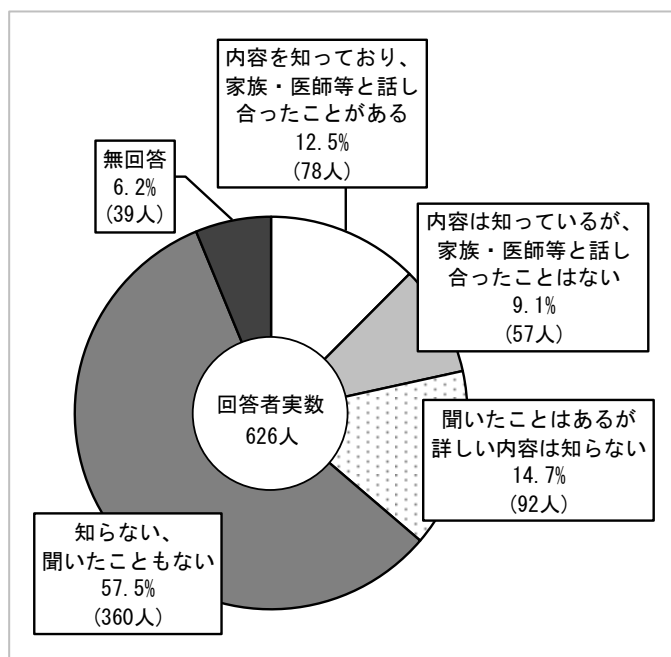
最期を迎えたい場所



③人生会議の認知状況

人生会議の認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(57.5%)が5割半ばを占めている。内容を知っている割合は21.6%となっている。

人生会議の認知状況



④エンディングノートの認知状況

エンディングノートの認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(38.0%)が4割近くで最も高く、エンディングノートを持っている割合は僅か 5.0%、内容を知っている割合は28.3%となっている。

エンディングノートの認知状況

